

英語1(全クラス)

99051

授業開講期間 前期集中単位数 2配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

Reading and Writing (週2回・2単位・同一の日本人教員担当)

この科目は、読み・書く力をつけることに重点をおき、基本的な英語力を改善することをねらいとしている。学生は、語彙を増やし、テキストについてコンテキストをふまえ、主要なアイデアとそれを補強するアイデアを把握し、skimming, scanningなどの読む技術を習得する。

また、テキストの要旨や批評にかかわって、学生はさまざまな書く課題に取り組まなければならない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語2(全クラス)

99052

授業開講期間 前期集中単位数 2配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

English Workshop (週2回・2単位・同一のネイティブ・スピーカー教員担当)

この科目は、学生のオーラル・コミュニケーション能力の改善をはかる。教員は、一連のテーマについてコンテンツ・ベースト・アプローチを用いる。学生は、関心あるトピックを選び、多様な媒体を通して、自分の意見を表現することを学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語3 (全クラス)

99053

授業開講期間 後期集中単位数 2配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

Reading and Writing (週2回・2単位)

英語1に引き続き、ReadingとWritingに重点をおく。Writingでは、いくつかのパラグラフを結びつけて、主要なアイデアとそれを補強する部分と結論を含む、一つのエッセーを書くことを目標とする。学生は、英文のレトリック、主要な構成パターン(比較対照、原因結果、分類と描写など)を学ばなければならない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語4 (全クラス)

99054

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

(英語専修コース)English in the Media :Print Media(週1回・1単位)

この科目は、メディアを批判的に読む力をつけることをねらいとしている。英文の新聞や雑誌の記事の構成、枠組み、言説、ナラティブ、レトリック、テクニカルな用語、言葉の選択について基本的な知識を学ぶ。また、インターネットのニュース源も活用する。ニュースを読むだけでなく、それについての分析を書く課題も含む。(英語専修コース)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語5 (全クラス)

99055

授業開講期間 後期単位数 1配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

English in the Media : Broadcast Media(週1回・1単位)

英語4と関連させ、メディア英語について学ぶ。英語5のほうは、テレビやラジオの英語ニュースを活用する。オーディオ・ビジュアルの機器を用いて、聴解力をつけることもねらいとしている。ニュース番組を見たり、聴いたりしながら、それらについて書く課題とクラスでの議論が求められる。(英語専修コース)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語6 (全クラス)

99056

授業開講期間 前期単位数 1配当回生 2回生のみ担当教員講義内容・テーマ

産業社会学部の学生が関心を持つさまざまな専門領域に関連した英文テキストを、クリティカルに読み、議論する力を養う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

辞書は必携。欠席して遅れた分は自分の責任でキャッチアップすること。

評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語7(全クラス)

99057

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

English Workshop (週1回・1単位・ネイティブ・スピーカー教員担当)

この科目は、英語2の展開で、コンテンツ・ベースト・アプローチを用いながらオーラル・コミュニケーションと聴解力に重点をおき、英語2で獲得した力をさらに伸ばすことをねらいとしている。それぞれのトピックやテーマをより深く学び、議論するために、取り上げるトピックやテーマの数については制限することが望ましい。(英語重視・専修コース)

産業社会学部の学生が関心を持つさまざまな専門領域に関連した英文テキストを、クリティカルに読み、議論する力を養う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語8 (全クラス)

99058

授業開講期間 前期集中単位数 2配当回生 2回生のみ担当教員講義内容・テーマ

English Seminar(週2回・2単位・日本人あるいはネイティブ・スピーカー教員担当)

この科目は、コンテンツ・ベースの科目で、特定のトピックをより深く掘り下げることをねらいとしている。これまでに取り上げられたテーマでは、「広告産業」「近代英国社会」などがある。学生は、自分の研究したいテーマを選び、担当教員の指導を受けながら、小論文を英語で書き上げることが求められる。この科目内容の詳細については、個別担当教員のコース概要を参照すること。(英語専修コース)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

3分の2以上の出席。その他は第1回目の講義で指示する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・基礎(全クラス)

99059

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 1回生のみ

担当教員講義内容・テーマ

スペイン語の基本的な文法を習得することを目標とする。また、発音、アクセント、綴り、基本的な語彙と簡単な表現を覚える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点,試験

講義スケジュールテキスト

初修重視コース:西川喬『新スペイン語ゼミナル』第三書房

英語重視コース:江澤照美『パソ ア パソ』同学社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・総合1(全クラス)

99063

授業開講期間 後期単位数 1配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

スペイン語の基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。同時にスペイン語圏について理解を深めることも目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初修重視コースの学生を対象にしている。

評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点,試験

講義スケジュールテキスト

担当者から指示する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・総合2(全クラス)

99064

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

スペイン語・総合1の継続である。より高度なコミュニケーション能力習得を目指す。スペイン語圏について理解を更に深めることも目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初修重視コースの学生を対象にしている。

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
- *日常点:加味する
- 平常点,試験

講義スケジュールテキスト

担当者から指示する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・展開(全クラス)

99062

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員講義内容・テーマ

スペイン語基礎で習得した事項を復習し、スペイン語の文法の基礎を確実に身につけることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点,試験

講義スケジュールテキスト

2002年度スペイン語基礎で使用したテキストを継続使用する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・表現1(全クラス)

99060

授業開講期間 後期単位数 1配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

スペイン語の基本的な語彙, 表現を習得する。日常生活や旅行での様々な状況に対応できる会話能力を身に付けることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

平常点, 試験

講義スケジュールテキスト

担当者から指示する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・表現2(全クラス)

99061

授業開講期間 前期単位数 1配当回生 2回生のみ担当教員講義内容・テーマ

スペイン語・表現1の継続である。語彙力をいっそう強化し、より複雑な表現ができるように努める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点,試験

講義スケジュールテキスト

担当者から指示する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・基礎(全クラス)

99077

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この講義は、後期に開講される、同一担当者による週2回2単位の科目である。
ドイツ語の基礎を教えながら、ドイツ文化に触れてもらうことをめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席が重視されるうえ、予習・復習が重要であるので、十分留意されたい。

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
- *日常点:加味する
- 期末試験ならびに平常点

講義スケジュールテキスト

「行ってらっしゃい！」朝日出版社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・総合1(全クラス)

99081

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この講義は、後期金曜日第3時限目に関講される1単位の科目である。ビデオを使用しながら、ドイツ語の、読み・書き・聞き・話すという4技能の向上をめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席が重視されるうえ、予習・復習が重要であるので、十分留意されたい。

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
- *日常点:加味する
- 期末試験ならびに平常点

講義スケジュールテキスト

「ALLES GUTE!」

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・総合2(全クラス)

99082

授業開講期間 前期単位数 1配当回生 2回生のみ担当教員講義内容・テーマ

この講義は、前期金曜日第3時限目に関講される1単位の科目である。ドイツ語・総合1につづく授業となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席が重視されるうえ、予習・復習が重要であるので、十分留意されたい。

評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

期末試験ならびに平常点

講義スケジュールテキスト

「ガービとフランク」(日本語版) 郁文堂

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・展開(全クラス)

99080

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この講義は、前期月曜日第2時限目と水曜日第2時限目に開講される、同一担当者による週2回2単位の科目である。ドイツ語・基礎につづく、基本的な文章、語彙、文法知識などをさらに発展させることをめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席が重視されるうえ、予習・復習が重要であるので、十分留意されたい。

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
- *日常点:加味する
- 期末試験ならびに平常点

講義スケジュールテキスト

「ゲーテンターク、ベリリーン！」(郁文堂) ならびに「常木 新ドイツ文法(新訂版)」

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・表現1(全クラス)

99078

授業開講期間 後期単位数 1配当回生 1回生のみ担当教員講義内容・テーマ

ドイツ語の基礎を練習しながら、"話す、聞く、書く、読む"といった4技能を養成する。
ビデオで練習の用法とドイツの文化を分かりやすく説明する。ロールプレイングおよびペアワーク等により実用的な会話を身につける。また基本的な文法を紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する
平常点(出席、授業参加への積極的態、小テスト)

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・表現2(全クラス)

99079

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

ドイツ語の基礎を練習しながら、"話す、聞く、書く、読む"といった4技能を養成する。
ビデオで練習の用法とドイツの文化を分かりやすく説明する。ロールプレイングおよびペアワーク等により実用的な会話を身につける。また基本的な文法を紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する
平常点(出席、授業参加への積極的態、小テスト)

講義スケジュールテキスト

Ash so! neu(同学社)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・基礎(全クラス)

99071

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

フランス語初級文法と習得単語数1000語の初級フランス語の語学力を育成する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点評価を加味した定期試験

講義スケジュールテキスト

エム・ヴー・ラ・フランス、コーセイ・オグラ他、第三書房、生協書籍部で販売

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・総合1(全クラス)

99075

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

フランス語初級文法と習得単語数1000語のフランス語初級の語学力を育成する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点評価を加味した定期試験

講義スケジュールテキスト

ミニ・デュ・conseil、シルヴィ・フジワラ他、朝日出版、生協書籍部で販売。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・総合2(全クラス)

99076

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

フランス語初級文法の完成と習得単語数2000語のフランス語中級の語学力を育成する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

平常点評価を加味した定期試験

講義スケジュールテキスト

フランス語総合1で使用したミニ・デュ・conseilを使用する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・展開(全クラス)

99074

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

フランス語中級文法と習得単語数2000語のフランス語中級の語学力を育成する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準*筆記試験:最終講義日試験で実施
平常点評価を加味した最終講義試験講義スケジュールテキスト

ミニ・ボンジュール・パリ、マサヒコ・ナカヤマ他、白水社、生協書籍部で販売

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・表現1(全クラス)

99072

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

基本的な語彙を定着させる。

フランスに旅行したり又は長期滞在した場合に、フランスの日常生活で起こりうる様々な問題に対処できるようにする。
社会面記事や、対立しあう意見を生んでいる諸々の討論の分析を通じて、フランス社会について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験：最終講義日試験で実施

* 日常点：加味する

平常点評価を加味した最終講義試験

講義スケジュールテキスト

必要な資料はコピーの形で配布。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・表現2(全クラス)

99073

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

基本的な語彙を定着させる。

フランスに旅行したり又は長期滞在した場合に、フランスの日常生活で起こりうる様々な問題に対処できるようにする。
社会面記事や、対立しあう意見を生んでいる諸々の討論の分析を通じて、フランス社会について考察する。受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する

平常点(授業中に行われる様々な練習の理解度、参加度などから総合的に判断する。)

講義スケジュールテキスト

DIALOGUES(Centre Franco-Japonais d'Osaka)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・基礎(全クラス)

99065

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この授業は、一回生の初修重視コース(8単位コース)及び英語重視コース(4単位コース)クラスの、発音や基礎文法などを学習する授業で、週2回行う。正しい中国語の発音や声調、基本語彙、基本文形、基礎文法などを習得することを目標とする。授業は発音からスタートし、特に中国語の特徴と言われている巻き舌音や四声、存在文や補語構文などの基本項目に重点を置きながら授業展開を行っていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

週4回又は週3回連携授業の内の2回分に当たる。主として文法事項を学習する。

評価方法・基準

- * 筆記試験: 定期試験として実施
 - * 日常点: 加味する
- 平常点と統一筆記試験を総合して判断する。

講義スケジュールテキスト

(コミュニケーション中国語) 立命館大学中国語部会編

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・総合1(全クラス)

99069

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この授業は、一回生の初修重視コース(8単位コース)クラスの連携授業で、「中国語・基礎」や「中国語・表現1」の授業で学習した語彙・文型・文法などの知識を生かして、日常会話やコミュニケーションに必要な基本会話やリスニングに重点を置きながら、総合的な運用能力を高めていく。週1回行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

週4回連携授業の内の1回分に当たる。主として日常会話やリスニングの練習を行う。

評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
 - *日常点:加味する
- 平常点と最終講義日リスニング試験を総合して判断する。

講義スケジュールテキスト

(話す中国語 北京編1)朝日出版社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・総合2(全クラス)

99070

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この授業は、初修重視コース(8単位コース)クラスの連携授業で、「中国語・基礎」、「中国語・表現1」、「中国語・総合1」を終了した2回生の学生を対象とする。「中国語・展開」などの授業で学習した語彙・文型・文法などの知識を生かして、日常会話やコミュニケーションに必要な会話やリスニングに重点を置きながら、総合的な運用能力を高めていく。週1回行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

週4回連携授業の内の1回分に当たる。主として日常会話やリスニングの練習を行う。

評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
 - *日常点:加味する
- 平常点と最終講義日リスニング試験を総合して判断する。

講義スケジュールテキスト

(話す中国語 北京編1)朝日出版社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・展開(全クラス)

99068

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この授業は、初修重視コース(8単位コース)の「中国語・基礎」を終了した2回生の学生を対象とし、「中国語・基礎」などの授業で習得した知識を生かしながら、発音や声調を更に上達させ、語彙を増やし、文法事項や文型などの学習を深めていく。週2回行う。中国語検定試験で言えば、4級程度のレベルを目指すことを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

週4回連携授業の内の2回分に当たる。主として文法事項を学習する。

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
 - *日常点:加味する
- 平常点と統一筆記試験を総合して判断する。

講義スケジュールテキスト

(コミュニケーション中国語)立命館大学中国語部会編

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・表現1(全クラス)

99066

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

この授業は、一回生の初修重視コース(8単位)及び英語重視コース(4単位コース)クラスの連携授業で、週1回行う。「中国語・基礎」の授業で学習した語彙・句型・文法などの知識を生かして、日常生活やコミュニケーションに必要な基本会話を学習していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

週4回又は週3回連携授業の内の1回分に当たる。主として日常会話を学習する。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

平常点と最終講義日口頭試験を総合して判断する。

講義スケジュールテキスト

(コミュニケーション中国語)立命館大学中国語部会編

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・表現2(全クラス)

99067

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

(初修重視コース)

この授業は、初修重視コース(8単位コース)クラスの連携授業で、「中国語・基礎」や「中国語・表現1」を終了した2回生の学生を対象とする。「中国語・展開」の授業で学習した語彙・文型・文法などの知識を生かして、日常生活やコミュニケーションに必要な会話を学習していく。週1回行う。

(英語重視コース)

この授業は、英語重視コース(4単位コース)クラスの授業で、「中国語・表現1」を終了した2回生の学生を対象とする。「中国語・基礎」と「中国語・表現1」の授業で学習した語彙・文型・文法などの知識を生かして、日常生活やコミュニケーションに必要な基本会話を学習していく。週1回行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

(初修重視コース)

週4回連携授業の内の1回分に当たる。主として日常会話を学習する。

(英語重視コース)

英語重視コース(4単位コース)2回生のクラスではこの授業だけである。

評価方法・基準

平常点と最終講義日口頭試験を総合して判断する。

講義スケジュールテキスト

(初修重視コース)

(コミュニケーション中国語)立命館大学中国語部会編

(英語重視コース)

(中国語スピーキング倶楽部)朝日出版社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

朝鮮語・基礎(全クラス)

99083

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

ハングルを習い始めた初歩の段階。母音・子音の習得と発音の練習に始まり、ハングルのごく短い文を読み、書き、聞き取ることが出来るようにする。表現、総合の授業などとも連携しながらハングル検定5級の合格を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

出席を重視し、随時行う小テスト、期末テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュールテキスト

文京洙『ハングル教本 基礎から読解まで』(新幹社)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

朝鮮語・総合1(全クラス)

99087

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

復習や反復練習、文法説明の補足などによって、基礎と表現1の授業をサポートする。さらに言語の背景となる、社会、歴史の解説、ビデオ鑑賞などを通じて、韓国社会の総合的な理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

出席を重視し、随時行う小テスト、期末テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュールテキスト

プリントを授業で配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

朝鮮語・総合2(全クラス)

99088

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

復習や反復練習、文法説明の補足などによって、展開と表現2の授業をサポートする。さらに言語の背景となる、社会、歴史の解説、ビデオ鑑賞などを通じて、韓国社会の総合的な理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

出席を重視し、随時行う小テスト、期末テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュールテキスト

プリントを授業で配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

朝鮮語・展開(全クラス)

99086

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

基礎的なハングルを読み、書き、聞き取ることができるようになる。漢字表現の日本語との類似性を利用して語彙を増やし、ある程度辞書を使うことが出来るように練習する。表現、総合の授業などとも連携しながらハングル検定4級の合格を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

出席を重視し、随時行う小テスト、期末テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュールテキスト

文京洙『ハングル教本 基礎から読解まで』(新幹社)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

朝鮮語・表現1(全クラス)

99084

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 1回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

ハングルを習い始めた初歩の段階。前半は、基礎の授業と連携して文字と発音を行う。後半は、簡単な決まり文句、数にまつわる会話表現などを学習し、基礎、総合の授業と連携してハングル検定5級合格を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

出席を重視し、随時行う小テスト、期末テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュールテキスト

プリントを授業で配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

朝鮮語・表現2(全クラス)

99085

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生のみ

担当教員

講義内容・テーマ

本学留学生の協力を得て、自己紹介などの基礎的なやりとりの実際のな力を身につける。色々なシチュエーションでハングルの初歩的な会話ができるようにし、基礎、総合の授業と連携してハングル検定5級合格を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

出席を重視し、随時行う小テスト、期末テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュールテキスト

プリントを授業で配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 海寶 康臣

講義内容・テーマ

さまざまな文化を理解する上で役立つ題材を通して、主にリーディングとリスニングの基礎力を養うことを目指します。テキストの各Unitのタイトルは次の通りです。Unit1:英語わからないの？Unit2:食べちゃいけない！Unit3:金髪！Unit4:テレビの見方も国それぞれUnit5:トイレでの、気になるあの音Unit6:校則と制服Unit7:先生、ごちそうさま！Unit8:いつも時間どおりUnit9:温泉は楽しい！Unit10:おもてなしUnit11:レディ・ファーストUnit12:先生、トイレ！Unit13:フリーターUnit14:敬語って難しいUnit15:お父さんと一緒にお風呂に入ってる!?Unit16:それって、食べ物？Unit17:傘、使いますか？Unit18:プレゼントは難しいUnit19:寒いのにミニスカートUnit20:私語はやめなさい！

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講上の注意事項に関しては、最初の授業で説明します。

評価方法・基準

- * 筆記試験:最終講義日試験で実施
 - * 日常点:加味しない
- 2回の試験の成績で評価します。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1
- 第3回 Unit2
- 第4回 Unit3
- 第5回 Unit4
- 第6回 Unit5、Unit6
- 第7回 Unit7、Unit8
- 第8回 試験(1)
- 第9回 Unit9、Unit10
- 第10回 Unit11、Unit12
- 第11回 Unit13、Unit14
- 第12回 Unit15、Unit16
- 第13回 Unit17、Unit18
- 第14回 Unit19、Unit20
- 第15回 試験(2)

テキスト

千波玲子 他著 Cultural Diversity 三修社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 吉田 信介

講義内容・テーマ

VOAは、1959年に放送が開始され、それ以来、英語を母国語としない世界中の人々に親しまれ、放送されつづけている。その英語の特徴は、1500語の限られた語彙を用いて、通常のニュース英語の3割程度遅いスピードで話されていることがあげられる。また、イディオムは使用せず、一文中に一つのアイデアを含む簡潔なものとなっている。このような配慮により、明確に各単語を聞き取ることができ、込み入った話題についても理解が可能となっている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の学習者との積極的なディスカッションや、インターネットを活用した能動的なネットサーチ課題を行う姿勢が望まれる。

評価方法・基準

* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点: 加味する

各回で行われる設問への解答の提出、ディスカッションへの参加度、レポート課題の提出により総合的に評価する。

講義スケジュール

第1回: Unit1 Bill Gates

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第2回: Unit2 Elections on Tuesdays

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第3回: Unit3 Studying in US

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第4回: Unit4 Louis Armstrong

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第5回: 復習と小テスト

第6回: Unit5 Fallingwater

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第7回: Unit6 Football

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第8回: Unit7 Family Planning Policy

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第9回: Unit8 America's Most Wanted

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第10回: 復習と小テスト

第11回: Unit9 Dormitory Living

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第12回: Unit10 Harvard University

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第13回: Unit11 GeekCorps

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第14回: Unit12 Kwanzaa

聴解、読解、内容理解、語彙、作文、ディスカッション、ネットサーチ

第15回: 復習と小テスト

テキスト

吉田信介、他「オンラインで学ぶVOAライフ系総合英語」2002 松柏社

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

VOA Special Englishサイト
<http://www.voanews.com/specialenglish/index.cfm>

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 DAVID G. MCCULLOUGH

講義内容・テーマ

This special lecture class will help students build their vocabulary and understanding of English. The course will involve listening, reading, speaking and writing.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students will be presented with a course vocabulary and grammar list. They may study these materials in their own time or may attend fortnightly lectures which will provide learning support. Students must attend mid-term and final tests on the material provided.

評価方法・基準

Students will be assessed solely on their performance in mid-term and end-of-term tests.

講義スケジュール

1. First Lecture April 4th
2. Second Lecture April 18th
3. Third Lecture April 25th
4. Mid-term test May 9th
5. Fourth Lecture May 23rd
6. Fifth Lecture June 6th
7. Sixth Lecture June 20th
8. Final Test July 11th

テキスト

No textbooks.

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 坂本 利子

講義内容・テーマ

映画が語る現代社会

講義内容: 映画は言語習得に有用な教材を提供してくれるだけでなく、社会問題、異文化、芸術、歴史や政治、時には哲学や心理学など、さまざまな問題を考え理解するのを助ける媒体ともなる。授業では、映画の背景や映画英語について講義を行い、学生は英語で小論を読む、聞く、書く、とコミュニケーション・スキルの向上を図る活動を行う。講義やビデオの他に、コンピュータでWebCTを活用したディスカッション、小テストと学生によるプレゼンテーションも行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義に関する情報はすべてWebCTに掲載するので、WebCTの坂本担当の「英語特別講義 1D」のページを参照のこと。

評価方法・基準

Based on final exam and other assignments.

講義スケジュール

Class 1: Introduction to the course / Volunteer / Child Abuse

Class 2: Internet/ Women and Jobs

Class 3: Barrier Free/ Racial Problems

Class 4: Computer & CG/ Drugs

Class 5: Modern Medical Treatment/ Mass Media

Class 6: Major League/ TV Shopping/ Aesthetics

Class 7: Abortion/ Business

Class 8: Final Exam

テキスト

Every Movie Tells a Story : 映画が語る現代社会 映画英語教育学会九州支部 著 (金星堂)

参考書

WebCT参照

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

WebCT参照

その他

WebCT参照

英語特別講義 1E

13307

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 山本 岩夫講義内容・テーマ

イギリスについての情報を伝えるやさしい英語を読み、聞き、話すことによって、英語の基本的なルールを身につける。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

十分な予習と授業における積極的な発言を期待している。

評価方法・基準

主として試験の成績で評価する。

講義スケジュール

スケジュールは以下を予定しているが、学習状況を見て進捗調整を行なうことがある。

1. 授業の説明。1・2課
2. 3・4課
3. 5・6課
4. 試験
5. 7・8課
6. 9・10課
7. 試験

テキスト

Terry O'Brien. Bridge to College English (南雲堂)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語特別講義 1F

15369

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 K. THOMAS E. FORAN講義内容・テーマ

A variety of interesting readings will be used in this class. 6 different written topics will be covered in class, 6 other topics will be assigned for homework.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味しない

Assessment will be made through a midterm and final exam based on the reading materials used in our class or homework.

講義スケジュールテキスト

No text is required for this class.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 池端 千賀子

講義内容・テーマ

「インターネットの情報をもっと、有効に使えたらいいな。」と、思っている人、インターネットの使用言語の多くを占めるのは英語なのです。この授業では、旅行や映画などの身近なトピックについて、インターネットから引用された英文を使って、reading や listening の復習をすると共に、英語を使って必要な情報を検索し、それを実際有効に使用する方法の習得をめざします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生は、テキストを購入してください。授業では、実際コンピューターは使用しませんが、自習室又は家庭で、自分の興味のあるサイトに、できるだけたくさんアクセスすることが求められます。

評価方法・基準

* 日常点:加味する

講義スケジュールテキスト

佐藤久美子 他 編著 Info.Com--Finding Links in English 「インターネット英語入門」 株)ピアソン・エデュケーション、2003

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 伊藤 聡子

講義内容・テーマ

この授業はリスニングの力を伸ばすことを目的としている。教材が様々な分野に関するひとまとまりの講義形式になっているので、いくつかのキーワードを手がかりに話の展開を推測したり、集中して聞くべきところと聞き流せるところなどを判断して、話の大まかな流れをたどることが出来るようになることを最終的な目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教材はTOEFLのリスニング問題後半の内容に近く、ナチュラルスピードのアメリカ英語になっているが、難度は普通である。この授業は出席はとらずに2回の試験の成績のみ(1回では不可)で評価を出す。リスニングである以上、欠席が多ければ単位の取得は困難になることに注意してもらいたい。また欠席時の内容は各自でカバーすること。

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味しない

評価はC(可)もしくはF(不可)のみとし、2回行われる試験を両方とも受験した上で、その合計点から決める。従って1回のみを受験での単位取得は出来ないことに注意してほしい。

講義スケジュール

以下の予定は暫定的なものである。詳細は授業時に連絡する。

Week 1 (Apr. 9) Orientation
Week 2 (Apr. 16) Ch. 1 Napoleon
Week 3 (Apr. 23) Ch. 2 Harriet Tubman
Week 4 (Apr. 30) Ch. 3 Language
Week 5 (May 7) Ch. 4 Hydroponic Aquaculture
Week 6 (May 14) Ch. 5 The News Media
Week 7 (May 21) Ch. 6 A Tidal Wave
Week 8 (May 28) Test 1
Week 9 (June 4) Ch. 7 Levels of Language Usage
Week 10 (June 11) Ch. 8 Asian and African Elephants
Week 11 (June 18) Ch. 9 Lincoln and Kennedy
Week 12 (June 25) Ch. 10 The Titanic and the Andrea Doria
Week 13 (July 2) Ch. 11 The American Civil War
Week 14 (July 9) Ch. 12 Dinosaurs
Week 15 (July 16) Test 2

テキスト

Patricia Dunkel and Phyllis L. Lim, Intermediate Listening Comprehension, Japan Edition (Shohakusha)
生協入荷予定

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生以上

担当教員 伊藤 聡子

講義内容・テーマ

読み、書き、聞き、話すという英語の4技能の総合的な学習が出来るテキストを利用して、基本的な文法を、身近な話題を取り上げた新聞記事などの抜粋を読んだり、簡単な会話を聞いたりしながら再確認していく。文法といっても内容はそれほど難しいものではなく、むしろコミュニケーションに必要な最低限の事項を復習することになる。基本的には個人作業だが、簡単な会話練習も含まれるので、毎回違う人とペアを組める人が望ましい。自分がこれまで学んだ内容を整理し直すことで、少しでも英語力を向上させることが、この授業の最終的な目標である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1クラスあたりの人数に制限があることから、登録するには一定の条件がつけられることがある。詳しくは掲示等で必ず確認すること。出席は取らないが、欠席時の授業内容は各自で補っておくこと。2回の試験の成績を考慮して単位を認定する。日常点評価は基本的には加わらないので、注意すること。

評価方法・基準

* 筆記試験：最終講義日試験で実施

* 日常点：加味しない

評価はC(可)もしくはF(不可)のみとし、2回行われる試験を両方とも受験してもらった上でその合計点から決める。従って1回のみを受験での単位取得は出来ない。なお基本的に日常点評価は加わらないので、注意すること。

講義スケジュール

以下の予定は暫定的なものである。詳細は授業時に連絡する。

Week 1 (Apr. 4) Orientation, Unit 1 "Getting to know you"

Week 2/3 (Apr. 11/18) Unit 1, Unit 2 "The way we live"

Week 4 (Apr. 25) Unit 3 "It all went wrong"

Week 5 (May 2) Unit 3

Week 6 (May 9) Unit 4 "Let's go shopping!"

Week 7 (May 16) Unit 4

Week 8 (May 23) Test 1

Week 9 (May 30) Unit 5 "What do you want to do?"

Week 10 (June 6) Unit 5

Week 11 (June 13) Unit 6 "The best in the world"

Week 12 (June 20) Unit 6

Week 13 (June 27) Unit 7 "Fame"

Week 14 (July 4) Unit 7

Week 15 (July 11) Test 2

テキスト

John and Liz Soars, American Headway 2A (Oxford)

生協に入荷予定。なお、後期水5の「英語特別講義2F」(2単位)も併せて受講する可能性のある人は、John and Liz Soars, American Headway 2 (Oxford)(2の後の"A"が抜けている、14 Unitsあるバージョン)の方を購入してもよい。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 蛇持 純子

講義内容・テーマ

英文雑誌Mini Worldのテキスト版を使用する。2000語レベルの文章から成るものだが、正確な精読をしていく。英語圏の近年の話題から、日本における国際結婚の現状まで、異文化を紹介する記事である。授業では主に精読と、巻末に付いている語彙・内容確認の練習問題に取り組む。必要ならばプリントをあわせて用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席をとらない形式の授業であるが、試験の情報や授業教材の文章及び問題に関する疑問点などは、受講者各自が自分で出席して自分の責任において確認すること。出席する者は予習をして来ることが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点:加味しない
評価は試験で行なう。
最終講義試験に加えて第8回目の授業日にも試験をする。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション・p5
- 第2回 p6 - 9
- 第3回 p10 - 13
- 第4回 p14 - 15
- 第5回 p16 - 17
- 第6回 p18 - 19
- 第7回 p20 - 21
- 第8回 試験第一回
- 第9回 p22 - 24
- 第10回 p25 - 26
- 第11回 p27 - 28
- 第12回 p29 - 31
- 第13回 p32 - 34
- 第14回 サマリー
- 第15回 試験第二回

テキスト

Mini World2003「オリジナル・ミニワールド2003」MLH企画・製作
(マクミラン ランゲージハウス)(1,900円)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 蛇持 純子

講義内容・テーマ

衛星放送ニュースを扱ったビデオ付きテキストを用いる。ユニットごとに、社会現象、ハイテク、環境問題、健康、新日本文化、スポーツ等、異なった現代のトピックを取り上げる。ビデオとカセットテープ使用による本文の下線部補充やユニットのトピックに関して各自の答え、意見を書かせるディスカッションの設問を中心に進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席をとらない形式の授業であるが、試験の情報や授業教材の文章中の疑問点、練習問題の解答などは、受講者が自分で出席して各
自の責任において確認すること。

評価方法・基準

* 日常点: 加味しない
評価は試験で行なう。
最終講義試験に加えて第8回目の授業日にも試験をする。

講義スケジュール

第1回 Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 試験第一回
第9回 Unit 8
第10回Unit 9
第11回Unit 10
第12回Unit 11
第13回Unit 12
第14回Unit 13
第15回 試験第二回

テキスト

「衛星放送で学ぶ英語2003年版 News Watch2」山根達朗・Stella M. Yamazaki著 (金星堂)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 伊藤 聡子

講義内容・テーマ

読み、書き、聞き、話すという英語の4技能の総合的な学習が出来るテキストを利用して、基本的な文法を、身近な話題を取り上げた新聞記事などの抜粋を読んだり、簡単な会話を聞いたりしながら再確認していく。文法といっても内容はそれほど難しいものではなく、むしろコミュニケーションに必要な最低限の事項を復習することになる。基本的には個人作業だが、簡単な会話練習も含まれるので、毎回違う人とペアを組める人が望ましい。自分がこれまで学んだ内容を整理し直すことで、少しでも英語力を向上させることが、この授業の最終的な目標である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1クラスあたりの人数に制限があることから、登録するには一定の条件がつけられることがある。詳しくは掲示等で必ず確認すること。出席は取らないが、欠席時の授業内容は各自で補っておくこと。2回の試験の成績を考慮して単位を認定する。日常点評価は基本的に加わらないので、注意すること。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味しない

評価はC(可)もしくはF(不可)のみとし、2回行われる試験を両方とも受験してもらった上でその合計から決める。従って1回のみを受験での単位取得はできない。なお基本的に日常点評価は加わらないので、注意すること。

講義スケジュール

以下の予定は暫定的なものである。詳細は授業時に連絡する。

Week 1 (Oct. 1) Orientation, Unit 8 "Dos and don'ts"
 Week 2 (Oct. 8) Unit 9 "Going places"
 Week 3 (Oct. 15) Unit 9
 Week 4 (Oct. 22) Unit 10 "Scared to death"
 Week 5 (Oct. 29) Unit 10
 Week 6 (Nov. 5) Unit 11 "Things that changed the world"
 Week 7 (Nov. 12) Unit 11
 Week 8 (Nov. 19) Unit 12 "Dreams and reality"
 Week 9 (Nov. 26) Unit 12
 Week 10 (Dec. 3) Test 1
 Week 11 (Dec. 10) Unit 13 "Making a living"
 Week 12 (Dec. 17) Unit 13
 Week 13 (Dec. 24) Unit 14 "All you need is love"
 Week 14 (Jan. 7) Unit 14
 Week 15 (Jan. 14) Test 2

テキスト

John and Liz Soars, American Headway 2B (Oxford)

生協に入荷予定。なお前期金5の「英語特別講義2C」(2単位)も併せて受講する可能性のある人は、

John and Liz Soars, American Headway 2 (Oxford)(2の後の"B"が抜けている、14 Unitsあるバージョン)の方を購入してもよい。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 JAMES SHAWN WALKER

講義内容・テーマ

The primary objective of this course is to develop within the students increased fluency in conversational English and increased confidence in utilizing his/her acquired skills in a variety of situations. Although a textbook will be used as the core focus, other miscellaneous materials will be included to expand on themes and vary the form of media with which the students interact.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 筆記試験・最終講義日試験で実施

講義スケジュール

Grades will be based solely on the final exam. However, due to the nature of the course, participation will be heavily emphasized and students are expected to actively contribute to classroom activities.

テキスト

Headway (Pre-Intermediate), Oxford University Press

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 石原 浩澄

講義内容・テーマ

学生生活、仕事、結婚といった身近なものから、社会問題までさまざまなトピックを扱います。
これらに関する比較的短い英文を読み、聞くことによって、英語運用能力の基礎を固めることを目標とします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第1回目の「オリエンテーション」には必ず出席すること。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施
セメスター2回のテストによって評価します。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション(+ Unit 1)
- 第2回 Unit 1 Student Life 1
- 第3回 Unit 2 Student Life 2
- 第4回 Unit 3 Our Future
- 第5回 Unit 4 Review
- 第6回 Unit 5 Happenings and Experiences
- 第7回 Unit 6 Marriage and Work
- 第8回 テスト(No.1)
- 第9回 Unit 7 Surprises
- 第10回 Unit 8 Review
- 第11回 Unit 9 Believe It or Not
- 第12回 Unit 10 Personal and Social Problems 1
- 第13回 Unit 11 Disasters
- 第14回 Unit 12 Personal and Social Problems 2
- 第15回 テスト(No.2)

テキスト

Topics and Tenses (トピックで学ぶ英語の基本ルールと応用), by Edith Newman and Toru Nishimoto
(Nan'un-Do, 南雲堂)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スペイン語・基礎 X スペイン語・基礎 CX	12981
---------------------------	-------

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 村上 由利子
木野 シルビア バリオス

講義内容・テーマ

スペイン語の基礎を確実に身につけることを目標とする。また、文化についての知識を得ることも目指している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
- *日常点:加味する

講義スケジュール

テキストに沿って進めるが、必要に応じてコピー等も適宜配布する。

テキスト

著者 : 坂東省次 岡本信照
書名 : スペイン語会話のための文法入門
出版社: 南雲堂フェニックス

参考書

瓜谷良平『改訂スペイン語の入門』白水社
小学館『西和中辞典』
白水社『現代スペイン語辞典(改訂版)』
小学館『プログレッシブスペイン語辞典』

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スペイン語・総合1 8X
スペイン語・総合1 X

13899

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 VALLS CAMPA LLUIS

講義内容・テーマ

練習を中心にしながら基本的なスペイン語の会話をし、文章を読むことや書くことを学ぶ。また、スペインの社会・文化を紹介することによってその理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業に積極的な参加が望ましい。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

日常点評価と最終試験。

講義スケジュール

- 第1回 「友達を作りましょう」1
- 第2回 「友達を作りましょう」2
- 第3回 「どこから来ましたか」1
- 第4回 「どこから来ましたか」2
- 第5回 「どんな人ですか」1
- 第6回 「どんな人ですか」2
- 第7回 「あなたは何をしますか」1
- 第8回 「あなたは何をしますか」2
- 第9回 「私の部屋」1
- 第10回 「私の部屋」2
- 第11回 「今日は何日ですか」1
- 第12回 「今日は何日ですか」2
- 第13回 「何時ですか」1
- 第14回 「何時ですか」2
- 第15回 試験

テキスト

テキストを指定しない。毎回授業中にプリントを配る。

参考書

西和辞書。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スペイン語・総合2 8X
スペイン語・総合2 X

14052

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 VALLS CAMPA LLUIS

講義内容・テーマ

練習を中心にしながら基本的なスペイン語の会話をし、文章を読むことや書くことを学ぶ。また、スペインの社会・文化を紹介することによってその理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業に積極的な参加が望ましい。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

日常点評価と最終試験。

講義スケジュール

- 第1回 講座の紹介
- 第2回 「私の一日」1
- 第3回 「私の一日」2
- 第4回 「喫茶店で」1
- 第5回 「喫茶店で」2
- 第6回 「旅行しよう」
- 第7回 「デパートで」1
- 第8回 「デパートで」2
- 第9回 「どんな趣味がありますか」1
- 第10回 「どんな趣味がありますか」2
- 第11回 「レストランで」
- 第12回 「週末は何をしますか」1
- 第13回 「週末は何をしますか」2
- 第14回 「週末は何をしましたか」
- 第15回 試験

テキスト

テキストを指定しない。毎回授業中にプリントを配る。

参考書

西和辞書。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スペイン語・展開 X スペイン語・展開 8X	12176
---------------------------	-------

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 村上 由利子、仲井 邦佳

講義内容・テーマ

スペイン語の基礎を確実に身につけることを目標とする。また、文化についての知識を得ることも目指している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

講義スケジュール

テキストに沿って進めるが、必要に応じてコピーなども適宜配布する。

テキスト

著者 : 坂東省次 岡本信照

書名 : スペイン語会話のための文法入門

出版社: 南雲堂フェニックス

参考書

瓜谷良平『改訂スペイン語の入門』白水社

小学館『西和中辞典』

白水社『現代スペイン語辞典(改訂版)』

小学館『プログレッシブスペイン語辞典』

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スペイン語・表現1 X
スペイン語・表現1 CX

14365

授業開講期間 前期 単位数 1 配当回生 2回生
担当教員 木野 シルビア バリオス

講義内容・テーマ

実際の会話においてのスペイン語の表現の仕方に重点をおく授業。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点:加味する

期末定期試験および平常小テスト、授業参加態度、出席状況等を総合評価する。

講義スケジュール

- 第1回 復習、あいさつ
- 第2回 復習、自己紹介
- 第3回 Estar動詞
- 第4回 規則動詞応用
- 第5回 職業などの表現
- 第6回 気候、天気表現
- 第7回 Tener動詞
- 第8回 時刻
- 第9回 疑問詞、前置詞
- 第10回 未来表現
- 第11回 再起動詞
- 第12回 直接、間接話法
- 第13回 現在完了
- 第14回 点過去
- 第15回 線過去

実際の会話においてのスペイン語の表現の仕方に重点をおく授業。

テキスト

スペイン語でなんと言いますか? Como se dice en espanol? 田村 美代子, Maria Teresa Valdes.
Geirin-shobo

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スペイン語・表現2 X
スペイン語・表現2 CX

14480

授業開講期間 後期 単位数 1 配当回生 2回生
担当教員 木野 シルビア バリオス

講義内容・テーマ

実際の会話においてのスペイン語の表現の仕方に重点をおく授業。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
 - *日常点:加味する
- 期末定期試験及び平常小テスト授業参加態度、出席状況等を総合評価する。

講義スケジュール

- 第1回 スペイン語・表現1で学んだ内容の復習
- 第2回 スペイン語・表現1で学んだ内容の復習
- 第3回 スペイン語・表現1で学んだ内容の復習
- 第4回 不規則動詞(GUSUTAR, TENERの使い方)
- 第5回 不規則動詞(GUSUTAR, TENERの使い方)
- 第6回 不規則動詞(GUSUTAR, TENERの使い方)
- 第7回 直接法 接続法
- 第8回 直接法 接続法
- 第9回 直接法 接続法
- 第10回 全体の見直しと未来と可能法の表現
- 第11回 全体の見直しと未来と可能法の表現
- 第12回 全体の見直しと未来と可能法の表現
- 第13回 全体の見直しと未来と可能法の表現
- 第14回 全体の見直しと未来と可能法の表現
- 第15回 全体の見直しと未来と可能法の表現

テキスト

プリント

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

ドイツ語・基礎 X

10812

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 舟場 保之

講義内容・テーマ

簡単な文と練習問題を使って、ドイツ語の基礎的な力をつけること。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎授業に必ず出席することが望ましい。

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

講義スケジュール

各課は、簡単な Dialog、文法説明そして練習問題で構成されているので、それらを用いて聴き取り練習、発音練習、文法理解に時間を割きます。目安として、6課くらいまで進むことにしたいと思います。

テキスト

在問進、田畑義之
コミュニケーションのためのドイツ語(第三書房)
生協書籍部にて購入可能

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・総合1 X

10465

授業開講期間 前期単位数 1配当回生 2回生担当教員 長崎 孝講義内容・テーマ

この講義は、前期月曜日第3時限目に開講される1単位の科目である。ドイツ語・総合1の単位をいまだ取得できていない2回生以上の産社学生が対象となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席が重視されるうえ、予習・復習が重要であるので、十分留意してもらいたい。

評価方法・基準

* 日常点: 加味する

平常点(出席、授業への参加意欲・積極性、予習・復習の実践、小テスト、当てられたときの発表など)

講義スケジュール

この授業では、テキストの第1課から第7課までを取り扱う。各課とも、まずビデオを見て導入をはかり、次いで本文へとすすむ。本文が済むと再度ビデオを見る。次いで練習問題に入り、各受講生に取り組んでもらう。この順序で、テキストに従って、第1課から第7課まで順を追ってすすんで行く。

テキスト

「ガービとフランク」(日本語版) 郁文堂

参考書

常木 実「標準ドイツ語」(新訂版) 郁文堂

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・総合2 X

15259

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 長崎 孝

講義内容・テーマ

この講義は、後期金曜日第4時限目に開講される1単位の科目である。ドイツ語・総合2の単位をいまだ取得できていない2回生以上の産社学生が対象となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席が重視されるうえ、予習・復習が重要であるので、十分留意してもらいたい。

評価方法・基準

* 日常点: 加味する

平常点(出席、授業への参加意欲・積極性、予習・復習の実践、小テスト、当てられたときの発表など)

講義スケジュール

この授業では、テキストの第8課から第12課までを取り扱う。各課とも、まずビデオを見て導入をはかり、次いで本文へとすすむ。本文が済むと再度ビデオを見る。次いで練習問題に入り、各受講生に取り組んでもらう。この順序で、テキストに従って、第8課から第12課まで順を追ってすすんで行く。

テキスト

「ガービとフランク」(日本語版) 郁文堂

参考書

常木 実「標準ドイツ語」(新訂版) 郁文堂

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 大西 光弘

講義内容・テーマ

- 1 ドイツ語を読む基礎の力を作る。
- 2 ドイツ語の歌を2曲か3曲歌えるようになる。
- 3 ドイツのことをビデオなどで知る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1 基礎から丁寧に説明しますから、
- 2 計4回ほど行う小試験を必ず受けてください。
- 3 出席状況を加味。

評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
- *日常点:加味する
- 1 主に最終講義試験で判定。
- 2 計4回ほど行う小試験に全てパスしないとA評価はなし。
- 3 出席状況を加味。

講義スケジュール

- 1 コンパクトな教科書を選んだので、期間中に全部終われます。
- 2 順番に一つ一つレンガを積み上げるように勉強してください。
- 3 教科書に加えて、ドイツの歌を紹介します。せっかくドイツ語を勉強するので、その記念に2曲か3曲くらいは、ドイツの歌を歌えるようになります。
- 4 授業は教科書に沿って、順番に進めてゆきます。

テキスト

『さあ行こう ドイツ語総合読本』浅野洋・秋田静男著 白水社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・表現1 X

14732

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 田中 誠

講義内容・テーマ

基本的な文法事項を学ぶとともに、状況に応じたやさしい会話表現の習得を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は再履修者を対象とする。受講者は一念発起して、積極的に授業に参加すること。

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

講義スケジュール

さまざまな状況での会話文と、基本的な文法事項について学習し、その後、練習問題で修得度の確認および応用力の養成を行う。
表現1ではテキストの前半を学ぶ。

テキスト

「ドイツ・プラクティッシュ<グリーン>」(三室、Schlecht著 三修社)

参考書

推薦辞書:「アクセス独和辞典」(三修社)、「新アポロン独和辞典」(同学社)、「クラウン独和辞典」(三省堂)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ドイツ語・表現2 X

14835

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 田中 誠

講義内容・テーマ

表現1での学習をふまえ、さらに進んで文法事項を学ぶとともに、状況に応じた会話表現の習得を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は再履修者を対象とする。受講者は一念発起して、積極的に授業に参加すること。

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

講義スケジュール

さまざまな状況での会話文と、文法事項について学習し、その後、練習問題で修得度の確認および応用力の養成を行う。表現2ではテキストの後半を学ぶ。

テキスト

「ドイツ・プラクティッシュ<グリーン>」(三室、Schlecht著 三修社)

参考書

推薦辞書:「アクセス独和辞典」(三修社)、「新アポロン独和辞典」(同学社)、「クラウン独和辞典」(三省堂)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

フランス語・基礎 X
フランス語・基礎 CZ

10813

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 宇野木 めぐみ

講義内容・テーマ

フランス語の基礎文法のアウトラインを身につける。日常語としてのフランス語に必要な語彙、文法、発音の習得をめざす。聞く・話す・読む・書くのバランスを重視し、とくに日本人学生の不得手な声を出しての練習を重視する。フランスの文化・社会への理解を深めるため適宜ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

出席について:3分の一以上の欠席は基本的に最終講義日試験を受ける資格なしとする。遅刻は3回で欠席一回(30分以上の遅刻は2回で欠席1回)とカウントする。

小テスト:3ないし4回の小テストを実施し、その平均点と最終講義日試験との平均点で成績評価する。

講義スケジュール

第1 - 3回:第一課(母音の発音・不規則動詞etre, faire・第一群規則動詞・疑問文)

第4 - 6回:第二課(不規則動詞avoir, aller・否定文・不定冠詞と定冠詞)

第7 - 9回:第三課(不規則動詞venir, devoir, prendre・前置詞と定冠詞の縮約)

第10 - 12回:小テスト(第一課 - 第三課)・第四課(子音字の発音・第二群規則動詞・不規則動詞dormir, pouvoir, vouloir・命令法)

第13 - 15回:第五課(近接未来・近接過去・非人称動詞・序数詞)

第16 - 18回:第六課(部分冠詞・補語人称代名詞・中性代名詞)

第19 - 20回:小テスト(第五課・第六課)・第七課(過去分詞・複合過去)

第21 - 23回:第八課(代名動詞・比較級と最上級)

第24 - 26回:第九課(半過去・強調構文)

第27 - 29回:小テスト(七 - 九課)・第十課(単純未来)

第30回:最終講義日試験

テキスト

『アン・パロール』阿南婦美代・Emmanuel RIGAUD・Bruno JACTAT著,早美出版社(2500)
生協書籍部にて購入のこと。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 池田 清

講義内容・テーマ

初級フランス語を学習し直します。使用するテキストは、読み物、文法説明、練習問題が1:1:2の割合から編集されています。授業の進行は、文法的説明をコンパクトにして(40分程度)、残りの時間で、読み物を訳し、練習問題を解くという形です。皆さん自身が、自分で訳し、自力で解くことを授業の中心とします。「辞書さえあれば、少しは何とかなる」という程度に、自信をつけることが授業の最大の目標です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

読み物を訳し、練習問題を解く上で、必携の持ち物は、辞書とノートです。辞書は必ず持参し、必ずノートを作成して下さい。ノートは、皆さんの習熟度を知るために授業ごとに見せてもらいます。

また、欠席は、授業を理解する上での最大の障害です。必ず、出席して下さい。

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

出席率と試験結果から総合的に評価します。出席率は、総合評価の50%以上を占めると考えて下さい。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 名詞、冠詞、否定形、属詞
- 第3回 疑問文、否定疑問文
- 第4回 avoir、形容詞
- 第5回 第1群規則動詞、faire、所有形容詞、部分冠詞、疑問形容詞、prendre
- 第6回 第2群規則動詞、命令法、aller、近接未来、監視の縮約、強勢形
- 第7回 venir、近接過去、不定代名詞、vouloir、pouvoir
- 第8回 人称代名詞、感嘆文、指示代名詞、受動態
- 第9回 複合過去、不定代名詞、savoir、attendre、devoir、関係代名詞quiとque
- 第10回 代名動詞、比較級、最上級、dire
- 第11回 半過去、大過去、中性代名詞le
- 第12回 単純未来、条件法現在、関係代名詞dontその他
- 第13回 接続法現在、ジェロンディフ
- 第14回 試験対策
- 第15回 最終講義日試験

テキスト

「フランス大好き」、小島俊明・北川正・根岸徹郎・高橋真弓、朝日出版社、各自生協にて購入のこと。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 池田 清

講義内容・テーマ

初級フランス語を学び直します。使用するテキストは、文法説明、練習問題、読み物が1:2:1の割合で編集されています。文法的説明は、できるだけコンパクトにして、皆さん自身が、練習問題を解き、読み物を訳す時間を中心にします。皆さん自身が、自力でテキストに取り組むことが授業の基本姿勢です。「辞書さえあれば、どうにかなる」、これを授業の目標とします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

辞書は必ず持参して下さい。また、練習問題を解いたり、読み物を訳すのにノートは不可欠です。必ず、ノートを作成して下さい。皆さんの習熟度を知るために、授業ごとにノートを見せてもらいます。出席することが、授業の理解の大前提です。必ず、出席して下さい。

評価方法・基準

* 筆記試験：最終講義日試験で実施

* 日常点：加味する

出席率と試験結果から総合的に評価します。出席率が、総合的評価の50%以上を占めると考えて下さい。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 名詞、不定冠詞、部分冠詞
- 第3回 定冠詞、主語としての人称代名詞、第1群規則動詞
- 第4回 avoir、否定形、疑問形
- 第5回 不規則動詞、指示形容詞、所有形容詞
- 第6回 形容詞の位置、形容詞の女性形、複数形
- 第7回 aller、venir、冠詞の縮約、命令形
- 第8回 第2群規則動詞、比較級、最上級、強勢形
- 第9回 faire、partir、目的語としての人称代名詞、疑問形容詞
- 第10回 devoir、pouvoir、vouloir、疑問代名詞、代名動詞
- 第11回 過去分詞、複合過去形、過去分詞の一致
- 第12回 半過去形、代名詞en、y
- 第13回 単純未来、強調構文、非人称構文
- 第14回 試験対策
- 第15回 最終講義日試験

テキスト

「ル・フランセ・ファシル」、斎藤昌三、白水社、各自生協にて購入のこと。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 宇野木 めぐみ

講義内容・テーマ

入門的な文法知識を前提として、その実践的な運用能力の獲得をめざす。
言語の背景となる文明・文化、「今のフランス」を理解する資料も含んだ教科書をもとに、基礎フランス語文法の応用力を身につける。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

出席について:3分の一以上の欠席は基本的に最終講義日試験を受ける資格なしとする。遅刻は3回で欠席1回(30分以上の遅刻は2回で欠席1回)とカウントする。

小テスト:3ないし4回の小テストを実施し、その平均点と最終講義日試験との平均点で成績評価する。

講義スケジュール

第1・2回:第一課(助言する)/補語人称代名詞

第3・4回:第二課(謝る)/代名動詞・単純未来

第5・6回:第三課(依頼する)/関係代名詞・現在分詞とジェロンディフ

第7 - 9回:小テスト(第一課 - 第三課)・第四課(残念に思う)/代名動詞の複合過去・半過去・大過去

第10・11回:第五課(抗議する)/受動態・中性代名詞

第12・13回:第六課(賛成・反対を言う)/条件法

第14 - 16回:小テスト(第四課 - 第六課)/第七課(承諾する・断る)/接続法

第17・19回:第八課(興味を示す)/直接話法と間接話法・時制の一致

第20・21回:第九課(時の表現)/強調構文・副詞

第22 - 24回:小テスト(第七課 - 第九課)第十課(場所の表現)/関係代名詞の複合形

第25・26回:第十一課(論理の表現)

第27 - 29回:小テスト(第十課・第十一課)/総復習

第30回:最終講義日試験

テキスト

『新・えすかるご2』藤田裕二著、朝日出版社(¥2500)
生協書籍部で購入のこと。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 藤本 佳子

講義内容・テーマ

人は誰でも普段さまざまなコミュニケーション力を駆使して生活しています。フランス語の学習のなかでこの能力を活用し、表現の基礎を身につけます。各課ともいくつかの短い会話を聞くことから始まります。表現のポイントに気づき、語彙を増やし、表現の手立てとして文法もていねいに学んでいきます。練習問題は仏検を視野に入れたものです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業に積極的に参加すること、間違いをおそれないこと、努力を怠らないこと、そしてフラン語を楽しんでほしい。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

講義スケジュール

第1 - 2回	0 - 1課	主語人称代名詞、不定冠詞、定冠詞、名詞の性・数
第3 - 4回	2課	規則動詞、疑問文、否定文、部分冠詞
第5 - 6回	3課	aller, venir
第7 - 8回	plus[1]	数詞、曜日、月、季節
第9 - 10回	4課	形容詞、faire
第11 - 12回	5課	指示形容詞、規則動詞
第13回	6課	疑問形容詞、命令法、非人称構文
第14 - 15回	plus[2]	疑問代名詞、疑問副詞、動詞

テキスト

久松健一著『(3訂版)フェリシタシオン! - 仏検 シャ・シャ・シャ』駿河台出版社

参考書

久松健一他著『でる順仏検単語集』駿河台出版社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 2回生

担当教員 藤本 佳子

講義内容・テーマ

人は誰でも普段さまざまなコミュニケーション力を駆使して生活しています。フランス語の学習のなかでこの能力を活用し、表現の基礎を身につけます。各課とも短い会話を聞くことから始まります。表現のポイントをおさえ、語彙を増やし、表現の手立てとして文法も学んでいきます。練習問題は仏検を視野に入れたものです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業に積極的に参加すること、間違いをおそれないこと、努力をおこたらないこと、そしてフランス語を楽しんでほしい。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

講義スケジュール

第1-2回	7課	人称代名詞、代名動詞
第3-4回	8課	単純未来、比較級、最上級
第5-6回	9課	複合過去、関係代名詞
第7-8回	plus[3]	仏検4級、中性代名詞
第9-10回	10課	半過去、大過去、受動態
第11-12回	11課	条件法、現在分詞、ジェロンディフ
第13-14回	12課	接続法
第15回	plus[4]	過去分詞まとめ、所有形容詞

テキスト

久松健一[『](3訂版)フェリシタシオン! - 仏検 シャ・シャ・シャ[』]駿河台出版社

参考書

久松健一他著[『]でる順仏検単語集[』]駿河台出版社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・基礎 CX
中国語・基礎 XA

11068

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 郭 富光
甘 琳樺

講義内容・テーマ

基礎となる文法事項を確認するとともに、さらに応用力の向上を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

主として期末の試験によるが、出欠状況を評価に加味する。

講義スケジュール

- 第1課 中国語の発音
- 第2課 人称代名詞 ~的 ~是 指示代名詞 副詞の"也"と"都"
- 第3課 数詞 助数詞「量詞」の位置 疑問数詞"几"と"多少"
- 第4課 形容詞が述語になる文 主な程度副詞 形容詞が副詞を修飾する場合
- 第5課 時を表わす代名詞 年・月・日・曜日の言い方 所有・所属の"有"
- 第6課 場所を表わす代名詞 2つのアル・イル"在"と"有"
- 第7課 動詞が述語になる文 動詞の重ねと"下" 禁止の"別"と"不要" 前置詞(1)
- 第8課 願望・つもりを表わす助動詞 当然を表わす助動詞 前置詞(2)
- 第9課 比較を表わす前置詞"比" 可能を表わす助動詞
- 第10課 2つの"了" 動詞+" "
- 第11課 時刻 時間の長さ ある期間+"(没)+動詞+"(了)"
- 第12課 進行 持続 近い未来"快"~"了"要~了"
- 第13課 "是~的"文 方式の" "と理由の" " 状態「程度」補語
- 第14課 結果補語 複合動詞
- 第15課 方向「移動」動詞・方向補語 連動文『中国語ステップバイステップ』荒川清秀 白水社

テキスト

『中国語ステップバイステップ』荒川清秀 白水社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語・基礎 CY
中国語・基礎 XB

12980

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 藤井 宏
汪 有偉

講義内容・テーマ

中国語の標準語である普通話の正しい発音を修得し、基本的な文法を学びながら、簡単なことが言えたり、聞けたり、あるいは簡単な文章が理解できるようにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 筆記試験: 最終講義日試験で実施
 - * 日常点: 加味する
- 試験と平常点による。

講義スケジュール

第1回～第14回

最初に授業の方針の説明のあと、文法(藤井)とミニ会話レッスン(汪)をそれぞれ週1回やります。最初の数回は発音にあてます。

第15回

試験。

テキスト

新しい中国語ルール(中国語教育研究会・白帝社)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

なるべく休まないようにして下さい。

中国語・総合1 8X
中国語・総合1 X

12122

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 張 文青

講義内容・テーマ

この講義は、コミュニティブ中国語の単語や文法を復習しながら、学習者の実際の語学レベルに合わせ、中国語会話や語彙量、文法レベルを更に向上するため授業構成を試みている。したがって、使用するテキストは中国の最新話題を提供し、課文は会話文で、話し言葉の学習を中心とした文法練習問題も用意している。実戦的で楽しく中国語を勉強できるように、大変面白いテキストを採用している。また、この講義での語学学習は、発音を重視している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

平常点や出席重視。

講義スケジュール

各講義の流れにおいては、基本的に3つの部分によって構成される。まずは、本文スキットの勉強、そして、文法説明、最後には練習問題と答え合わせとなる。発音重視の講義となるので、本文をスムーズにかつ綺麗に読んでいただくために、丁寧に訂正していくつもりである。

以下、学習者の皆様に授業構成を紹介し、楽しみをもってこの講義を挑んでいただきたい。

第一課 ファッションの話

第二課 インターネットの話

第三課 交通の話

第四課 食の話

第五課 レジャーの話

第六課 収入の話

第七課 株の話

第八課 住宅の話

第九課 結婚の話

第十課 教育の話

第十一課 スポーツの話

第十二課 環境の話

また、各スキットの内容に合わせ、中国現在の発展状況のビデオやその他のニュースをも紹介する予定。中国音楽や歌をお好きな学習者も楽しみしてください。

テキスト

朝日出版社 『現代中国 走馬看花』(新訂版)

三浦正道 楊 光俊 編

参考書

中国語辞書や文法書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

中国語・展開 8X
中国語・展開 YA

11176

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 鈴木 常勝
郭 偉

講義内容・テーマ

発音の基礎、特に声調をマスターする。
基本文型の習得。
中国語会話のくり返し練習。「中国人留学生との会話」を課題とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点: 加味する
平常点重視。欠席者は減点。

講義スケジュール

・毎回必ず声にだして中国語を発音する。
・ビデオによる中国語聞き取りを行う。
・中国現代文化、日中文化ギャップも話題とする。

テキスト

初回に指示するので、必ず出席のこと。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

中国語・展開 8Y
中国語・展開 YB

14103

授業開講期間 後期集中 単位数 2 配当回生

担当教員 趙 ニーナ
 祁 小春

講義内容・テーマ

最履修の授業として、自分の意志や気持ちを中国語で簡単に表現できるようになるだけでなく、中国語の発音や四声の矯正から会話や聞き取り能力の向上を目指して、学生諸君それぞれの努力によって各自の収穫をより多くすることを目的に授業を進める方針です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

普通の勉強する態度は最終評価の参考になる。

評価方法・基準

平常点 + 期末試験

講義スケジュール

テキスト

『大学生燐』（駿河台出版社） 陳 洲拳・山田訓子著 生協で販売

参考書

『新華字典』商務印書館

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

中国語・表現1 CX 中国語・表現1 XA	15121
--------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 趙 ニーナ

講義内容・テーマ

この授業は、語彙・表現を学生生活に密着したものに絞り、活用度の高い内容をごく短いセンテンスで表す教材を使い、中国語の発音や四声の矯正から会話や聞き取り能力の向上を目指して、授業を進める方針です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

普段の勉強する態度は最終評価の参考になる。

評価方法・基準

平常点 + 期末試験

講義スケジュール

テキスト

『中国語はじめの一步』(白水社) 景春・竹島 毅著 生協で販売

参考書

『新華字典』商務印書館

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

中国語・表現1 CY 中国語・表現1 XB	14111
--------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 黄 麗華

講義内容・テーマ

当講座は中国語の発音、文法、日常会話、辞書の引き方などについての基礎的な学力の養成を目指すものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**評価方法・基準**

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

成績評価は出席状況、受講態度、期末テストの成績などを総合して行う。

講義スケジュール

まず発音の基本となる?音を繰り返し練習する。

文法や文型を正確に理解する。

自己紹介をはじめ、さまざまな日常会話を本文や練習問題をとおしてしっかり覚える。

テキスト

尹 景春・竹島 毅 著 『中国語はじめての一步』(白水社)

参考書**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

中国語・表現2 YA
中国語・表現2 CX

14013

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 甘 琳樺

講義内容・テーマ

1年間の中国語学習を積み重ねてきたものの、中国語で「表現」する力(慣れも含めて)が少し不足してしまった学生に対する再履修科目。基本的な文型を用いて、多彩なコミュニケーションが可能な力を養成することを目標としています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

最終講義試験を実施します。この試験の成績に、授業への出席・参画度などによる日常点を加味して、成績評価を行いません。

講義スケジュール

テキスト

相原茂・喜多山幸子・魯暁『大事なことはみんなやさしい中国語で言える』朝日出版社

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

中国語・表現2 CY 中国語・表現2 YB	14448
--------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 黄 麗華

講義内容・テーマ

これまで習得した中国語の基礎的な知識をもとに、中国語の実力をさらにレベルアップさせることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

*筆記試験:定期試験として実施

*日常点:加味する

成績評価は出席状況、受講態度、期末テストの成績などを総合して行う。

講義スケジュール

中国語の基礎となる40の短文を柱に、発音練習、文法の理解、練習問題、辞書を引きながら「応用文」解読への挑戦などをまじえて、バランスのとれた表現力を身につける。

テキスト

菊田正信・黄 麗華 著『中国語ステップ40』(大修館書店)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

朝鮮語・基礎 CX
朝鮮語・基礎 X

11069

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 金 河元

講義内容・テーマ

ハングルを習い始めた初歩の段階。母音・子音の習得と発音の練習に始まり、ハングルのごく短い文を読み、書き、聞き取ることが出来るようにする。表現、総合の授業などとも連携しながらハングル検定5級の合格を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

朝鮮語の響きの世界(イントネーション、リズム、発音)を重視する。その中の文法。出席を大事にしましょう、特に学期初めには。

評価方法・基準

出席を重視し、随時行う小テスト、末期テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュール

- 1回:授業のガイダンスの後、学生たちの要求を聴いて授業の進行において参考にする。
- 2回:朝鮮語の響き。
- 3回:朝鮮語の文字の仕組み。存在詞。
- 4回:朝鮮語の響きと文字。指定詞。
- 5回:小テスト。各自自分の弱いところを確認。復習。
- 6回:朝鮮語の響き。
- 7回:朝鮮語の文章。用言の活用。
- 8回:朝鮮語の響きと文章の流れ。
- 9回:小テスト。各自自分の弱いところを確認。復習。
- 10回:用言の連体形。
- 11回:用言の過去形。
- 12回:小テスト。各自自分の弱いところを確認。復習。
- 13回:敬語表現。数の表現。
- 14回:変則用言。
- 15回:期末テスト。総整理。

テキスト

文京洙『ハングル教本 基礎から読解まで』(新幹社)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

朝鮮語・総合1 8X
朝鮮語・総合1 X

12119

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 嚴 敬俊

講義内容・テーマ

文字の習得から始まり、短文の作文ができることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

講義スケジュール

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

朝鮮語・総合2 8X
朝鮮語・総合2 X

13220

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 嚴 敬俊

講義内容・テーマ

辞書を使って、ある程度の翻訳ができることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

韓日辞書が必要

評価方法・基準

* 筆記試験・最終講義日試験で実施

講義スケジュール

テキスト

文京洙『ハングル教本:基礎から読解まで』新幹社
ほかプリントなど

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

朝鮮語・展開 8X
朝鮮語・展開 X

11173

授業開講期間 後期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 金 河元

講義内容・テーマ

ハングルを習い始めた初歩の段階。母音・子音の習得と発音の練習に始まり、ハングルのごく短い文を読み、書き、聞き取ることが出来るようにする。表現、総合の授業などとも連携しながらハングル検定5級の合格を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

朝鮮語の響きの世界(イントネーション、リズム、発音)を重視する。その中の文法。出席を大事にしましょう、特に学期初めには。

評価方法・基準

出席を重視し、随時行う小テスト、末期テスト、授業態度など総合的に評価する。

講義スケジュール

- 1回:授業のガイダンスの後、学生たちの要求を聴いて授業の進行において参考にする。
- 2回:朝鮮語の響き。
- 3回:朝鮮語の文字の仕組み。存在詞。
- 4回:朝鮮語の響きと文字。指定詞。
- 5回:小テスト。各自自分の弱いところを確認。復習。
- 6回:朝鮮語の響き。
- 7回:朝鮮語の文章。用言の活用。
- 8回:朝鮮語の響きと文章の流れ。
- 9回:小テスト。各自自分の弱いところを確認。復習。
- 10回:用言の連体形。
- 11回:用言の過去形。
- 12回:小テスト。各自自分の弱いところを確認。復習。
- 13回:敬語表現。数の表現。
- 14回:変則用言。
- 15回:期末テスト。総整理。

テキスト

文京洙『ハングル教本 基礎から読解まで』(新幹社)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

朝鮮語・表現1 CX
朝鮮語・表現1 X

13140

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 南 裕恵

講義内容・テーマ

朝鮮語の発音法則を中心に学び、朝鮮語に特徴的な文法体系や文法構造の基礎的なものを基に、日常的な意思疎通ができるよう、対話形式で実践練習する。日常生活において、より自然な朝鮮語を使用できることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

随時行う小テストおよび・期末試験

講義スケジュール

- 第1回～第5回 文字の発音
- 第5回 指示語での表現練習
- 第6回 肯定・否定での疑問表現
- 第7回 自己紹介
- 第8回 場所の表現
- 第9回 天候の表現
- 第10回 曜日表現
- 第11回 過去時制での表現
- 第12回 電話での応対
- 第13回～第14回 不規則用言の表現
- 第15回 期末試験

テキスト

授業でプリントを配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

朝鮮語・表現2 CX
朝鮮語・表現2 X

14446

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 南 裕恵

講義内容・テーマ

日常生活の様々な状況に応じて、自然で実際の朝鮮語での対話ができるよう、基礎的な会話表現を学習する。その上で、初歩的な会話を聞き取り、瞬時に応答できる能力を修得することを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし

評価方法・基準

随時行う小テストおよび・期末試験

講義スケジュール

- 第1回～第3回 文字の発音
- 第4回 数の表現
- 第5回 物品購入の際の表現
- 第6回 原因、理由の表現
- 第7回 義務表現
- 第8回 命令表現
- 第9回 意図表現
- 第10回 同意表現
- 第11回 謝罪表現
- 第12回～第14回 不規則用言の表現
- 第15回 期末試験

テキスト

授業でプリントを配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

英語 A1

11574

授業開講期間 前期集中単位数 2配当回生担当教員 JAMEELA S NASEEM講義内容・テーマ

The main aim of this course is to introduce students to the different stages involved in academic writing in English. Emphasis will be placed on the writing process rather than just the finished product. Students will be given a variety of exercises designed to help them learn to write in a formal and academic manner. It is hoped that by the end of this course students will be able to produce a well-developed, well-written essay on a suggested topic.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students should already have an intermediate level of grammar and sentence construction.

評価方法・基準

Grades will be determined by regular class attendance and participation (10%) and five written assignments : two in class (15% each) and three at home (20% each).

講義スケジュール

The schedule will be handed out on the first day of class.

テキスト

Title : Writing Academic English, 3rd edition.

Authors : Alice Oshima & Ann Hogue.

Publisher : Longman.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語 A2

11575

授業開講期間 前期集中単位数 2配当回生担当教員 JAMES SHAWN WALKER講義内容・テーマ

The primary objective of this course is to develop within the students increased skills and confidence in writing in English. Writing will be approached as a process including prewriting, outlining, drafting, revising, and editing. Although academic writing will be emphasized, time will also be dedicated to examining other forms of creative written expression.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

Grades will be based on participation, homework, presentations, and projects. Due to the nature of the course, participation will be heavily emphasized and students are expected to actively contribute to classroom activities.

講義スケジュールテキスト

Ready to Write More, Longman Publishing Group

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 JOHN FREDERICK ASHBURNE

講義内容・テーマ

This class will help students develop the formal English writing skills required at the college level. Working with a variety of rhetorical styles, students will have extensive practice in presenting ideas in essay format. Reading, listening and discussion activities will be integrated around theme-based material helping students to develop a full range of language skills for academic purposes.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

In addition to the course text, students need to be equipped with the following:

- a notebook for regular journal writing
- loose leaf paper for other writing assignments

評価方法・基準

Grades will be based on

- (i) attendance & participation
- (ii) a writer's journal
- (iii) assessed essay assignments.

講義スケジュール

Week 1: What is academic writing? A look at the writing process
Week 2: The structure of a paragraph; writing good topic sentences
Week 3: The Narrative Paragraph
Week 4: The Expository paragraph
Week 5: Introduction to the Essay; the perils of plagiarism; The thesis statement; the introduction.
Week 6: Developmental paragraphs: supporting the thesis; the conclusion
Week 7: The Example Essay
Weeks 8-9: The Comparison & Contrast Essay
Weeks 10-11: The Classification Essay
Weeks 12-13: The Cause & Effect Essay
Weeks 14-15: The Argumentative Essay

テキスト

Refining Composition Skills : Rhetoric & Grammar (5th edition)
R.L. Smalley, M.K. Ruetten & J.R. Kozyrev - Heinle & Heinle

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

details of various related sites in the course textbook

その他

Homework will be assigned each lesson and must be completed in time for the next class in order for students to participate fully.

授業開講期間 前期集中

単位数 2

配当回生

担当教員 MARK ALAN SELZER

講義内容・テーマ

The underlying objective of this class is to help students develop their abilities for written expression at the university level. Writing activities will be centered around a content-based course format intended to stimulate various styles of written expression and help prepare students prepare for future academic writing.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students must be equipped with 1) a A4 size binder of their preference to contain their handouts and 2) a note book for journal writing and answering questions.

評価方法・基準

Grades will be based on 1) attendance & participation 2) a writing journal 3) several essay assignments

講義スケジュール

WRITING ABOUT FILM - Introduction to the study of film genres.
(each module will span approximately 3 class meetings)

- Module 1: The classic horror genre
- Module 2: The classic western genre
- Module 3: The classic comedy genre
- Module 4: The romantic comedy genre
- Module 5: The suspense film genre
- Module 6: Discrimination in film
- Module 7: Feminism in film
- Module 8: The aure genre (Hitchcok)
- Module 9: The film noir genre

テキスト

Handouts provided by instructor (see special requirements)

参考書

A good English-Japanese, Japanese-English Dictionary is strongly recommended

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

英語 A1

10471

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 DAVID G. MCCULLOUGH

講義内容・テーマ

This course aims to help students who have lived overseas develop high-level presentation skills. Students will be required to critically analyse texts from a range of media, to conduct individual research and to assemble coherent arguments on a range of contemporary issues connected to the theme of Adventure and Personal Challenge.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

Grading Criteria

This is an advanced class so a high level of motivation and organization will be expected of students.

There will be regular tests on texts for class study and students will also be assessed on individual and group presentations given in class.

講義スケジュール

Syllabus

Week 1	Introduction
Week 2	Presentation Skills A
Week 3	Presentation Skills B
Week 4	Personal Presentations
Week 5	A Hero for our Time
Week 6	Around the World Alone
Week 7	Against the Odds
Week 8	Extreme Sports
Week 9	To Build a Fire
Week 10	Without Light
Week 11	The Ends of the Earth
Week 12	Group Presentations
Week 13	Group Presentations
Week 14	Final Presentations and Evaluation
Week 15	Final Presentations and Evaluation

テキスト

Textbook: No Textbook

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 JAY KLAPHAKE

講義内容・テーマ

PRESENTATION WORKSHOP - NEGOTIATION AND CONFLICT RESOLUTION

This course will focus on developing students negotiation and presentation skills.

Negotiations are central to our lives. They occur in personal, business, legal, national and international arenas. Successful negotiations are a way to get what we want in a peaceful environment, while increasing the possibility of future cooperation. While wars and court trials garner a lot of media attention, most international legal and political disputes are resolved by less aggressive means, such as negotiations. This course explores the processes, strategies and tactics of negotiation and conflict resolution. Using negotiation simulations and presentations, we will study the nature and dynamics of resolving disputes --from personal negotiation to international conflict.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Class activities will include short lectures, negotiation simulations, and group presentations.

評価方法・基準

* 日常点:加味する

Approximately: 10% journals/exercises, 30% presentations, 30% simulations, 30% attendance and participation.

講義スケジュール

- 1) Class Overview
- 2) Negotiation 1 (Employee Relations)
- 3)
- 4) Negotiation 2 (Multi-party)
- 5) Negotiation 2
- 6)
- 7) Negotiation 3 (Buyer-Seller)
- 8) Cuban Missile Crisis Simulation Overview
- 9) Group Work 1
- 10) Group Work 2
- 11) Group Work 3
- 12) Presentations Options 1, 2
- 13) Presentation Option 3, Debate
- 14) Presentation Presidents Team Decision
- 15) Simulation Debrief

テキスト

Teacher provided materials.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 MICHAEL JAMES BENDON

講義内容・テーマ

To present students with material on a variety of topics such the culture, history, traditions and current events of various countries, including Japan. Also by outlining and illustrating a number of research techniques the students will be introduced to the avenues open to them to undertake their own investigations.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する

Assessment will be on-going with attendance and participation being the major requirements. Students will be expected to give three individual and one group presentation to the class, all of which must exhibit evidence of accepted research methodologies and original content or approach. All sources used in preparation for presentations must be cited appropriately.

講義スケジュール

By using a variety of media approaches as stimuli, the classroom is to serve as a meeting place, for discussion and expression of opinions and as a venue to present results of reading and research. Students' interests are to be incorporated into the syllabus, and any appropriate ideas or suggestions for extension activities may be used during the course. It is expected that the students will complete pertinent reading, outside class time, and do all necessary preparation prior to attending each class. A willingness to communicate ideas and information is a must. Presentation of the results of specific research will be presented to the class at varying times during the course.

Week 1: Introductions and student input for class schedule

Week 2: Research methodologies; survey, interview and focus group discussion. Citation methods also to be introduced

Week 3: First individual presentation

Weeks 4-6: To be advised

Weeks 7-8: Group presentations

Weeks 9-10: Second individual presentation

Weeks 11-12: To be advised

Weeks 13-15: Final individual presentations

テキスト

The teacher will provide all necessary in-class materials.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語 B2

11795

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 THOMAS BYRON KIMBALL講義内容・テーマ

This is a content based course with a focus on developing discussion skills, opinions, and research techniques for individual and group presentations. Topics will be sourced from a variety of media, including films and newspaper articles.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する

Grading will be based on attendance, participation in class activities, discussions, and presentations.

講義スケジュール

To be announced at the 1st class.

テキスト

No textbook

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 WILLIAM L. FENNELL

講義内容・テーマ

This course will focus on listening, as there will be a certain number of whole-class lectures, but students will get extensive practice in all four language skills. Students will do internet-based research, write summaries and reports, and give oral presentations on the following three topics: Shyness; Cosmetic Surgery; and Dating, Marriage, and Divorce. We will examine and discuss these topics from an international, cross-cultural perspective.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

In addition to the instructor's lectures, students will information on the topics, carefully consider the issues, and share the information with their classmates. MOST IMPORTANT: PARTICIPATION and DOING ALL OF THE WORK ON TIME. Important Notice: Students who use cellphones in this class will fail (final grade: F).

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

Final grades will be based on the following: Active participation in class (40%); doing homework on time (40%); quality of written and oral reports (10%); and degree of effort and improvement (10%). Notice: Students who regularly fail to participate in class, do the homework on time, or make a reasonable effort in this course will receive an "F."

講義スケジュール

CLASS MEETING SCHEDULE

Weeks 1 to 5: SHYNESS

Week 1: Introduction to Shyness: Reading and Lecture

Week 2: In-class Discussion

Week 3: In-class Discussion / In-class essay test

Week 4: Student Reports--Group A

Week 5: Student Reports--Group B

Also Written Report on Shyness for Groups A and B

Weeks 6 to 10: COSMETIC SURGERY

Week 6: Introduction to Cosmetic Surgery: Reading and Lecture

Week 7: In-class Discussion

Week 8: In-class Discussion / In-class essay test

Week 9: Student Reports--Group B

Week 10: Student Reports--Group A

Also Written Report on Cosmetic Surgery for Groups A and B

Weeks 11 to 15: DATING, MARRIAGE, AND DIVORCE

Week 11: Introduction to Dating, Marriage, and Divorce: Reading and Lecture

Week 12: In-class Discussion

Week 13: In-class Discussion / In-class essay test

Week 14: Student Reports--Group A

Week 15: Student Reports--Group B

Also Written Report on Dating, Marriage, and Divorce for Groups A and B

FIVE-WEEK CYCLE FOR EACH TOPIC

We will work with each topic for five weeks (five class meetings). During this cycle, each student will participate in in-class discussion; do an in-class essay test; complete a written report; and give an oral presentation.

テキスト

No textbook. The instructor will provide all written materials.

参考書

None.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

Information will be given in class.

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 DWIGHT ALEXANDER TKATSCHOW

講義内容・テーマ

This course is designed to provide students with a background in academic discourse within the context of an English as a second language (ESL/FLI) environment. Its focus is upon issues of language and culture in a global context. The course will deal with three important figures in recent history who have had a significant impact upon world culture and have contributed to the betterment of life and society through the avocation of peace and non-violence: Mother Teresa, Daw Aung San Suu Kyi and H.H. The 14th Dalai Lama. Emphasis will be placed upon the socio-political aspects of their lives and how they have influenced global society in relation to politics, peace, human rights, religion and also the environment, etc. Its approach is linguistic and cognitive concentrating upon discourse as well as reading, writing and research skills (inclusive of computer assisted learning), while at the same time stimulating intellectual interest through provocative subject matter. Each lesson until will be supplemented with relevant multimedia materials (videos, etc.) to enhance the power of the subjects being covered.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students are required to involve themselves in class activities in both oral and written contexts that actively involve them in the use of the English language. Homework assignments and class activities are intensive and designed specifically to provide an opportunity for students to be able to develop higher controlled use and understanding of the English Language and an environment in which to apply the academic tools of formal discourse, critical thinking, and argumentation.

評価方法・基準

Grades will be awarded on the basis of oral and written assignments, formal examinations and participation. All students will be expected to attend classes regularly and actively participate in all its activities. The distribution of marks consists of five components:

1. One Interim Exam (30-45 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
2. Oral presentation (15-20 minutes) [Can be individual or group (in consultation with the instructor)] -- Maximum of 20 Marks
3. Weekly Reports [Individual] (5 to 10 minutes) -- Maximum of 20 Marks
4. Final Exam (45-60 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
5. participation -- Maximum of 20 Marks

講義スケジュール

Unit One: Mother Teresa: A Beacon of Hope for the World (Weeks 1-4)
 Unit Two: Daw Aung San Suu Kyi: Non-violent Crusader for Peace and Democracy (Weeks 5-8)
 Unit Three: The Dalai Lama: Ocean of Wisdom and Compassion (Weeks 10-14)

Oral Presentation Schedule

Oral Presentations (Week 13)

Oral Presentations (Week 14)

Examination Schedule

Interim Exam: Mother Teresa & Daw Aung San Suu Kyi (Week 9)

Final Exam: The Dalai Lama (Week 15)

テキスト

Tkatschow, Dwight A. Peacemakers of the 20th century. (A Comprehensive 4 skills & CAL ESL/FLI Course) High Intermediate Level (Revised & Updated Edition 2003)

(Please Note: Textbook will be supplied by the instructor)

参考書

A list of useful references will be supplied by the instructor. Also any good English/Japanese dictionary.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

Internet website information related to the course will be supplied by the instructor.

その他

Attendance of 2/3 of the class is compulsory. All students must write both exams, do all weekly reports and be involved in a group or individual oral presentation to pass the course. Also students should have basic skills in the use of a word processor and the Internet, i.e. use of e-mail, web browsers, etc.

英語 B1

14736

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 ANNA KIM講義内容・テーマ

This course aims to develop listening skills and encourage critical assessments of various social issues. Students will also do research and give presentations.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する
Weekly assignments - 60%
Journal - 15%
Participation - 15%

講義スケジュール

To be announced.

テキスト

none

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 DWIGHT ALEXANDER TKATSCHOW

講義内容・テーマ

This course is designed to provide students with a background in academic discourse within the context of an English as a Second Language (ESL/FLL) environment. It is content-based and deals with issues of Language and Culture in a Global context through in-class and independent study. The course will focus upon Peace Studies -- Peace and Conflict Resolution, its theoretical basis, strategies past and present, as well as current and possible future trajectories within the 21st Century. Subject areas to be dealt with range from religious & political value systems, negative & positive peace, structural violence, the peace-war continuum, social & biological justifications for war, the nature & function of conflict and the ideological basis for Peace Studies, etc. The importance of the course is to engender an understanding of peace and its ramifications and at the same time to promote language learning grounded in content-based study materials. It is also designed to broaden the student's personal knowledge base and develop within each one an understanding of equality, tolerance and multiculturalism, etc. Its approach is linguistic and cognitive concentrating upon discourse as well as writing skills, while at the same time stimulating intellectual interest through provocative subject matter. Course materials will also be supplemented with relevant multimedia materials.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students are required to involve themselves in class activities in both oral and written contexts that actively involve them in the use of the English language. Homework assignments and class activities are intensive and designed specifically to provide an opportunity for students to be able to develop higher controlled use and understanding of the English Language and an environment in which to apply the academic tools of formal discourse, critical thinking, and argumentation.

評価方法・基準

Grades will be awarded on the basis of oral and written assignments, formal examinations and participation. All students will be expected to attend classes regularly and actively participate in all its activities. The distribution of marks consists of five components:

1. One Interim Exam (30-45 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
2. Oral presentation (15-20 minutes) [Can be individual or group (in consultation with the instructor)] -- Maximum of 20 Marks
3. Bi-weekly Reports [Individual] (5 to 10 minutes) -- Maximum of 20 Marks
4. Final Exam (45-60 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
5. Participation -- Maximum of 20 Marks

講義スケジュール

- Unit 1: Introduction to Peace Studies (Week1)
- Unit 2: Eastern Concepts and Judeo-Christian Concepts (Week2)
- Unit 3: Positive Versus Negative Peace (Week3)
- Unit 4: The Role of Structural Violence (Week4)
- Unit 5: Achieving Positive Peace (Week5)
- Unit 6: Review I (Week6)
- Unit 7: Social Justice (Week8)
- Unit 8: The Peace-War Continuum (Week9)
- Unit 9: Biological Justifications for War (Week10)
- Unit 10: Social and Political Justifications for War (Week11)
- Unit 11: Review II (Week12)

Oral Presentation Schedule

Oral Presentation (Week13)

Oral Presentation (Week14)

Examination Schedule

Interim Exam (Week7)

Final Exam (Week15)

テキスト

Barash, David P. Introduction to Peace Studies: The Meaning of Peace. (Edited with Notes by Kyoko Okumoto & Aiko Saito) Tokyo, Japan: The Eihosha Ltd., 1991 (ISDN-269-12111-4 C1082)

参考書

A list of useful references will be supplied by the instructor. Also any good English/Japanese dictionary.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

Internet website information related to the course will be supplied by the instructor.

その他

Attendance of 2/3 of the class is compulsory. All students must write both exams, do all bi-weekly reports and be involved in a group or individual oral presentation to pass the course. Also students should have basic skills in the use of a word processor and the internet, i.e. use of e-mail, web browsers, etc.

英語 A1

11901

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 SIMON HOWELL講義内容・テーマ

This course aims to :

- * help you develop reading skills such as identifying main ideas, important points and author bias
- * give you the chance to read articles on a wide variety of topics
- * improve your analysis and discussion skills

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

There will be a lot of handouts (prints) so students should buy an A4 folder or binder.

評価方法・基準

* 日常点: 加味する

Grades will be based on attendance, participation, homework, project work and quiz scores.
Please come to class ready to enjoy using English to express your ideas.

講義スケジュール

A schedule will be handed out on the first day of class.

テキスト

There is NO set textbook. Most of the course materials will be provided by the instructor.
Students will also be required to develop and present some class materials.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

Students will find a Japanese-English, English-Japanese dictionary useful.

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 DWIGHT ALEXANDER TKATSCHOW

講義内容・テーマ

This course is a continuation of English (Returnees) A2. Its focus is upon issues of language and culture in a global context. Three more figures in recent history will be dealt with who have had a significant impact upon world culture and have contributed to the betterment of life and society through the avocation of peace and non-violence: Martin Luther King, Jr., Mahatma Gandhi and Nelson Mandela. Emphasis will be placed upon the socio-political aspects of their lives and how they have influenced global society in relation to politics, peace, human rights, religion and also the environment, etc. Its approach is linguistic and cognitive concentrating upon discourse as well as reading, writing and research skills (inclusive of computer assisted learning), while at the same time stimulating intellectual interest through provocative subject matter. Each lesson unit will be supplemented with relevant multimedia materials (videos, etc.) to enhance the power of the subjects being covered.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students are required to involve themselves in class activities in both oral and written contexts that actively involve them in the use of the English language. Homework assignments and class activities are intensive and designed specifically to provide an opportunity for students to be able to develop higher controlled use and understanding of the English Language and an environment in which to apply the academic tools of formal discourse, critical thinking, and argumentation.

評価方法・基準

Grades will be awarded on the basis of oral and written assignments, formal examinations and participation. All students will be expected to attend classes regularly and actively participate in all its activities. The distribution of marks consists of five components:

1. One Interim Exam (30-45 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
2. Oral presentation (15-20 minutes) [Can be individual or group (in consultation with the instructor)] -- Maximum of 20 Marks
3. Weekly Reports [Individual] (5 to 10 minutes) -- Maximum of 20 Marks
4. Final Exam (45-60 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
5. Participation -- Maximum of 20 Marks

講義スケジュール

Unit four: Martin Luther King, Jr.: Peaceful Activist and Martyr for Civil Rights (Weeks 1-3)

Unit Five: Mahatma Gandhi: Father of Non-Violent Resistance (Weeks 4-8)

Unit Six: Nelson Mandela: Champion of the Oppressed and Advocate For Racial Harmony (Weeks 10-14)

Oral Presentation Schedule

Oral Presentations (Week 13)

Oral Presentations (Week 14)

Examination Schedule

Interim Exam: Martin Luther King, Jr. & Mahatma Gandhi (Week 9)

Final Exam: Nelson Mandela (Week 15)

テキスト

Tkatschow, Dwight A. Peacemakers of the 20th century. (A Comprehensive 4 skills & CAL ESL/FI Course) High Intermediate Level (Revised & Updated Edition 2003)

(Please Note: Textbook will be supplied by the instructor)

参考書

A list of useful references will be supplied by the instructor. Also any good English/Japanese dictionary.

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

Internet website information related to the course will be supplied by the instructor.

その他

Attendance of 2/3 of the class is compulsory. All students must write both exams, do all weekly reports and be involved in a group or individual oral presentation to pass the course. Also students should have basic skills in the use of a word processor and the internet, i.e. use of e-mail, web browsers, etc.

英語 B1

11903

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 MICHAEL JAMES BENDON講義内容・テーマ

As a reading class, students will be provided with material on a variety of topics such the culture, history, traditions and current events of various countries, including Japan. The use of a number of different approaches to the reading of different styles of media will be introduced, through which students will critically assess what they are being confronted with in printed formats.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点: 加味する

Assessment will be on-going with attendance and participation being the major requirements. Students will be expected to hand in two individual reports and one group report, all of which must exhibit evidence of accepted research methodologies and original content or approach. All sources used in preparation for the reports must be cited appropriately.

講義スケジュール

The classroom is to serve as a meeting place for discussion and expression of opinions and as a venue to present results of reading and research. Students' interests are to be incorporated into the syllabus, and any appropriate ideas or suggestions for extension activities may be used during the course. It is expected that the students complete all pertinent reading, outside class time, and do any necessary preparation prior to attending each class. A willingness to communicate ideas and information is a must. Presentation of the results of specific reading will be presented to the class at varying times during the course

Week 1: Introductions and student input for class schedule

Week 2: Citation methods to be introduced

Week 3: First individual report due

Weeks 4-6: To be advised

Weeks 7-8: Group report preparation

Weeks 9: Group report due

Weeks 11-12: To be advised

Weeks 13-15: Second individual preparation. Due in final class.

テキスト

The teacher will provide all necessary in-class materials.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 WILLIAM L. FENNELL

講義内容・テーマ

This course will focus on critical reading, but students will get extensive practice in all four language skills. In addition to some whole-class lectures and reading homework, students will do internet-based research, write brief summaries and reports, and give oral presentations on the following three topics: The Roles of Men and Women; Asian Stereotypes and Discrimination; and The Role of The Internet in Modern Life. We will examine and discuss these topics from an international, cross-cultural perspective.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

In addition to the instructor's lectures, students will gather information on the topics, carefully consider the issues, and share their ideas with their classmates. MOST IMPORTANT: PARTICIPATION and DOING ALL OF THE WORK ON TIME. Important Notice: Students who use cellphones in this class will fail (final grade: F).

評価方法・基準

* 筆記試験: 最終講義日試験で実施

* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点: 加味する

Final grades will be based on the following: Active participation in class (40%); doing homework on time (40%); quality of written and oral reports (10%); and degree of effort and improvement (10%). Notice: Students who regularly fail to participate in class, do the homework on time, or make a reasonable effort in this course will receive an "F."

講義スケジュール

CLASS MEETING SCHEDULE

Weeks 1 to 5: THE ROLES OF MEN AND WOMEN

Week 1: Introduction to The Roles of Men and Women: Reading and Lecture

Week 2: In-class Discussion

Week 3: In-class Discussion / In-class essay test

Week 4: Student Reports--Group A

Week 5: Student Reports--Group B

Written Report on The Roles of Men and Women for Groups A and B

Weeks 6 to 10: ASIAN STEREOTYPES AND DISCRIMINATION

Week 6: Introduction to Asian Stereotypes and Discrimination: Reading and Lecture

Week 7: In-class Discussion

Week 8: In-class Discussion / In-class essay test

Week 9: Student Reports--Group B

Week 10: Student Reports--Group A

Written Report on Asian Stereotypes and Discrimination for Groups A and B

Weeks 11 to 15: THE ROLE OF THE INTERNET IN MODERN LIFE

Week 11: Introduction to The Role of the Internet in Modern Life: Reading and Lecture

Week 12: In-class Discussion

Week 13: In-class Discussion / In-class essay test

Week 14: Student Reports--Group A

Week 15: Student Reports--Group B

Written Report on The Role of the Internet in Modern Life for Groups A and B

FIVE-WEEK CYCLE FOR EACH TOPIC

We will work with each topic for five weeks (five class meetings). During this cycle, each student will participate in in-class discussion; do an in-class essay test; complete a written report; and give an oral presentation.

テキスト

No textbook. The instructor will provide all materials.

参考書

None.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

Website information will be given in class.

その他

英語 A1

14325

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 BARBARA L. HYDE講義内容・テーマ

To help students maintain the English language skills acquired while living abroad, and also to develop further their ability to clearly articulate ideas and opinions and take part in discussions. Students will research and discuss topical issues of relevance and interest to them, in particular social and intercultural issues.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students will need to research independently outside the class, and in class, participate in and eventually lead discussions.

評価方法・基準

* 日常点: 加味する
attendance and participation: approx.: 30%
homework and tests: 30%
presentations: 30%

講義スケジュール

Introductory class: selecting topics to be discussed
next few classes: input for discussion-reading etc followed by short, guided discussions
later classes: student-led discussions and presentations

Mainly small group activities. Students will be given considerable choice in the selection of topics and materials

テキスト

No text book: handouts, usually of press articles, will be provided.

参考書

Students should own an English-English dictionary

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

英語 A2

14326

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 K. THOMAS E. FORAN講義内容・テーマ

The purpose of this course is to develop discussion, debate, and presentation skills. Outside research will be encouraged, and will be used in class participation. The class is focus on oral and listening skills, with some writing and reading also required.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 筆記試験: 最終講義日試験で実施

* 日常点: 加味する

Grades will be based on attendance, attitude, and participation.

講義スケジュールテキスト

No textbooks are required for this course.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 野口 メアリー

講義内容・テーマ

The primary goal of this course is to prepare students for college-level discussion in an English-speaking country. The course is designed to give students experience in two different types of discussion: one for which they are not prepared and have not researched the topic in advance, and one for which they have done some research. Topics chosen for discussion will be broad social issues in which the students themselves have expressed interest. Each student will have to play the role of group leader for two topics, making a presentation on each of these topics and then leading the group in both types of discussion of the topics. Each student will also act as the note-taker for his or her group and then make a report to the class on the group's discussion of two topics. When students are neither the group leader nor the note-taker, they will rely on their own experience and knowledge to discuss the topic for the first week, and then be given a reading and/or a web site to go to in order to prepare for the informed discussion of the same topic the following week.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Attendance, participation and preparation are very important. Group leaders must attend the classes in which they are scheduled to lead the discussion and also must meet the instructor outside of class to have their presentation notes and discussion questions checked before the discussions.

評価方法・基準

* 日常点:加味する

Grades will be based on discussion leadership (25%), written reports (25%), note-taking and reporting (20%), reading and preparation for informed discussions (20%), and attendance and participation (10%). Students who miss more than three classes will get a lower final grade.

講義スケジュール

During the first class, students will suggest topics they would like to discuss. Class activities will then focus on using the internet for research and being aware of author bias. During the third and fourth classes, students will form groups and discuss topics chosen by the instructor. From the fifth week on, we will discuss the topics suggested by the students, with one student in each group serving as the group leader and one as the note-taker/reporter for each topic. Each topic will be discussed for two weeks. Only the group leader will know the topic before the discussion the first week. S/he will prepare a 5- to 10-minute introductory presentation on the topic and 7 to 10 questions to lead the discussion with the other students, who will have made no special preparation for the discussion. Group leaders must show their presentation notes and questions to the instructor in advance. After the first week's discussion, the instructor will pass out readings and the URLs for web sites on the topic for the other students to prepare for the following week's discussion. Students may be quizzed on their preparation for the second discussion. Two weeks after their topic is finished, group leaders will have to turn in a written report (750 - 1,000 words) on their experience as a group leader.

テキスト

The instructor will provide handouts or direct students to web sites to get information on topics.

参考書

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 DWIGHT ALEXANDER TKATSCHOW

講義内容・テーマ

This course is a continuation of English (Returnees)B2.It is content-based and deals with issues of language and culture in a global context through in-class and independent study. Further issues of Peace and Conflict Resolution will be examined with a consideration of possible solutions to violent global trends and the understanding of the importance of Peace Studies in an academic environment, etc. Subject areas to be dealt with range from a brief overview of the ideologies of particular political systems and how they understand the process of peace, to international diplomacy & negotiations, human rights, militarism, the question of the inevitability of war, options for change and the crisis of the current world situation. The importance of the course is to engender an understanding of peace and its applications within global society and at the same time to promote more advanced levels of language learning grounded in content-based study materials. It is also designed to broaden the student's personal knowledge base and develop within each one an understanding of other cultures, with respect to their individual cultural values and thinking, and also promote tolerance, equality and multiculturalism, etc. Its approach is linguistic and cognitive concentrating upon discourse as well as writing skills, while at the same time stimulating intellectual interest through current and provocative subject matter. Course materials will also be supplemented with relevant multimedia materials.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students are required to involve themselves in class activities in both oral and written contexts that actively involve them in the use of the English language. Homework assignments and class activities are intensive and designed specifically to provide an opportunity for students to be able to develop higher controlled use and understanding of the English Language and an environment in which to apply the academic tools of formal discourse, critical thinking, and argumentation.

評価方法・基準

Grades will be awarded on the basis of oral and written assignments, formal examinations and participation. All students will be expected to attend classes regularly and actively participate in all its activities. The distribution of marks consists of five components:

- 1.One Interim Exam (30-45 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
- 2.Oral presentation (15-20 minutes)[Can be individual or group (in consultation with the instructor)]-- Maximum of 20 Marks
- 3.Bi-weekly Reports[Individual](5 to 10 minutes) -- Maximum of 20 Marks
- 4.Final Exam (45-60 minutes) -- Maximum of 20 Marks (All students must take this exam to pass the course)
- 5.Participation -- Maximum of 20 Marks

講義スケジュール

Unit 12: The Conservative Viewpoint (Week1)
 Unit 13: The Liberal Viewpoint (Week2)
 Unit 14: The Radical Leftist Viewpoint (Week3)
 Unit 15: Is War Inevitable? (Week4)
 Unit 16: Can Nations Change? (Week5)
 Unit 17: Review (Week6)
 Unit 18: Is Peace Studies Politically & Ideologically Motivated? (Week8)
 Unit 19: Is Peace Studies Politically and Ideologically Motivated? (Week9)
 Unit 20: Is Peace Studies Redundant? (Week10)
 Unit 21: The Nature and Function of Conflict (Week11)
 Unit 22: Review (Week12)

Oral Presentation Schedule

Oral Presentation (Week13)
 Oral Presentation (Week14)

Examination Schedule

Interim Exam (Week7)
 Final Exam (Week15)

テキスト

Barash., David P. Introduction to Peace Studies:The Meaning of Peace.(Edited with Notes by Kyoko Okumoto &

Aiko Saito) Tokyo,Japan: The Eihosha Ltd.,1991 (ISDN4-269-12111-4 C1082)

参考書

A list of useful references will be supplied by the instructor. Also any good English/Japanese dictionary.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

Internet website information related to the course will be supplied by the instructor.

その他

Attendance of 2/3 of the class is compulsory. All students must write both exams, do all bi-weekly reports and be involved in a group or individual oral presentation to pass the course. Also students should have basic skills in the use of a word processor and the internet, i.e. use of e-mail, web browsers,etc.

英語 2A

14122

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 K. THOMAS E. FORAN講義内容・テーマ

The main thrust of this course is on developing critical reading skills, while helping them learn to express their opinions on the topics covered. Through outside research, they will learn to collect and disseminate several points of view on a single issue. This should help them to become more active participants in debating classes.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students are expected to participate positively and enthusiastically in classroom activities.

評価方法・基準

* 日常点:加味する

Students will be assessed on a quizzes on selected readings, class participation, weekly research assignments, and presentations.

講義スケジュールテキスト

Open Minds: Exploring Global Issues through Reading and Discussion
The University of Michigan Press. ISBN 0-472-08358-9

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 IAIN FORBES DAVEY

講義内容・テーマ

This course has the main aim of developing and improving on, students' critical skills, while also helping them to express their opinions on the topics covered. Through individual research outside of class, they should be able to learn the value of collecting and disseminating several points of view on a single issue. This in turn should also prepare them for more active participation in debating classes.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students will be expected to research enthusiastically and participate fully in classroom activities.

評価方法・基準

* 日常点:加味する

Students will be assessed on in-class participation, attendance, quizzes on selected readings, weekly research assignments, and presentations.

講義スケジュール

1. Introductions
2. Nutrition
3. Nutrition 2
4. Aid & Development
5. Aid & Development 2
6. Homosexuality
7. Homosexuality 2
8. Minority Rights
9. Minority Rights 2
10. Drug Abuse
11. Drug Abuse 2
12. Poverty
13. Poverty 2
14. Presentations
15. Presentations

テキスト

Open Minds: Exploring Global Issues through Reading and Discussion
The University of Michigan Press. ISBN 0-472-08358-9

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 KENNETH PARKES

講義内容・テーマ

In this class students will be presented with fifteen carefully chosen controversial issues and will be exposed to different opinions on each issue. Vibrant and realistic dialogues present different viewpoints which will encourage students to formulate their own opinions on these and related issues.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

There are no special requirements for participation in this course.

評価方法・基準

Grades will be based on attendance, punctuality classroom participation and the quality of homework assignments.

講義スケジュール

Week 1 Mobile phones
Week 2 Freeters'
Week 3 The Olympic Games
Week 4 Marriage
Week 5 Smoking and drinking
Week 6 English : Should everyone learn it ?
Week 7 Exercise : Is it good for everyone ?
Week 8 Divorce
Week 9 Cars
Week 10 Working parents
Week 11 Computers
Week 12 Television
Week 13 Gambling
Week 14 Gendergap
Week 15 Cloning

テキスト

WHICH SIDE ARE YOU ON ? (SEIBIDO)

参考書

No reference books are required for this course

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 ELAINE MARGARET GILL

講義内容・テーマ

The course goals are to help students to develop their debating and communicative skills and to improve their critical reading and research skills.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Good attendance and enthusiastic participation are very important.

評価方法・基準

* 日常点:加味する

Grades will be based on attendance, participation and weekly assignments.

講義スケジュール

1. Introductions - Forming opinions - opinion types, discussion v debate.
2. Basic form of debate - Useful terms, Delivery, intonation, body language.
3. Proposition / Debate resolution - How to write a good resolution.
4. Explaining reasons for opinions - qualities of strong reasons.
5. Reasons brainstorming and prioritizing. Purpose of word maps.
6. Research-supporting evidence-sources and types of evidence.
7. Point by point v holistic reasoning. More on research-paraphrasing.
8. 1st affirmative speech - linking techniques, strong conclusion.
9. 1st negative speech - how to refute opinions - negative strategies.
10. More repetition practice especially questioning sources, intonation stress.
11. Overview of positive-negative sides of debate, practice.
12. Debating members rules and responsibilities. Non-verbal communication.
13. Review debating process-writing, losing and judging debates.
14. Debate practice-review weak areas.
15. Final class-final debates and class feedback.

テキスト

"Make Your Point" by Michael Lubetsky

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 MANFRED KARL ROER

講義内容・テーマ

Goal: wir ueben freies Sprechen - ohne Buch und ohne Japanisch

Topic: Alltagsdeutsch 1

- im Geschaefft (Lebensmittel / Kleidung / Buecher)
- Fragen nach dem Weg / der Uhrzeit (wo ist ... / wie spaet ?)
- im Restaurant: bestellen / bezahlen (was moechten sie ?)
- auf der Post: Briefmarken kaufen / Brief abschicken etc. (Porto ?)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

conditions: wirkliches Interesse an Deutsch, Klassenheft (file for homework and vocabulary)

teaching method: Gruppenarbeit, Rollenspiel, Vokabeltest etc.

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

講義スケジュールテキスト

copy, Video,

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 MANFRED KARL ROER

講義内容・テーマ

Goal: wir ueben freies Sprechen - ohne Buch und ohne Japanisch

Topic: Alltagsdeutsch 2

- Informationen erfragen (wo gibt es)
- Meinungen sagen (wie findest du das ?)
- Gruende nennen (das gefaellt mir, weil)
- Tagebuch schreiben (was hast du heute gemacht ?)

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

teaching method: Gruppenarbeit, Rollenspiel, speech (Vortrag), Vokabeltest etc.

conditions: wirkliches Interesse an Deutsch, Klassenheft (file for homework and vocabulary)

評価方法・基準

* 筆記試験・最終講義日試験で実施

講義スケジュールテキスト

copy, Video

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 舟場 保之

講義内容・テーマ

耳で覚えたドイツ語に文法的な知識を加え、さらに運用能力を高めること。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

既習の事柄もありますが、反復することに意味があるので、継続的に出席することが望ましい。

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

講義スケジュール

教科書は、各課が簡単な Dialog 2つと Lesetext 1つ、文法説明と練習問題で構成されています。それらを適宜選択して、理解が難しい項目について特に時間を割きたいと思います。なお、9ないし10課まで進むことを目安にします。

テキスト

W.シュレヒト、三室次雄

ドイツ・プラクティッシュ<ロート>(三修社)

生協書籍部にて購入可能

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.goethe.de>

その他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 竹治 進

講義内容・テーマ

現代ドイツ人の思考と生活は日本人的な視点から眺めるとどんな特徴があるのか。そんな切り口で書かれた文章を読むことによってドイツ語の読解力を養い、文法の復習をし、いろんな練習によって表現力を身につけることを目標とした授業です。

受講者全員が到達すべき目安として、実際に受験するしないに関わらず独検3級水準を設定しています。そして、受験のための練習も加味した授業とする予定です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語の基礎的な力があることを前提とした授業ですが、「基礎的な力」にも個人差があることですから、理解不十分な点についての質問、進度・難度、教材に関する要望などは率直に伝えてください。

評価方法・基準

*筆記試験：最終講義日試験で実施

*日常点：加味する

最終講義試験を行います。むしろ日常点に大きな比重を置くと理解してください。

日常点とは、出席状況、授業への積極的参加の度合い、小テストなどです。

講義スケジュール

1. 導入
2. トイレでノックはするな
3. ドイツ人と音
4. ドイツ人はケチ？
5. ドイツ人のジョーク
6. 割り勘
7. ドイツ人とサンドイッチ
8. ドイツ人の時間感覚
9. 保守と革新
10. 客はどこに座らせる
11. 遅れてきたとき、どのように着席するのか？
12. 使いやすい表現と使いにくい表現
13. 働いてばかりはいられない
14. あなたのことは、僕が一生、全力でお守りします
15. まとめと試験

テキスト

大谷弘道・Ursula Otani「ドイツ語読み方教室」三修社

参考書

中島・平尾・朝倉「必携 ドイツ文法総まとめ」

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

Deutsche Welle <http://www.dw-world.de>

その他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 舟場 保之

講義内容・テーマ

耳で覚えたドイツ語に文法的な知識を加え、さらに運用能力を高めること。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教科書は中級表現読解I K(前期)と同一のものを途中の課から使用するので、できれば前期から継続して受講することが望ましい。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

講義スケジュール

教科書は、各課が簡単な Dialog 2つと Lesetext 1つ、文法説明と練習問題で構成されています。それらを適宜選択して、理解が難しい項目について特に時間を割きたいと思います。なお、教科書は途中(10ないし11課)から使用します。

テキスト

W.シュレヒト、三室次雄

ドイチュ・プラクティッシュ<ロート>(三修社)

生協書籍部にて購入可能

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.goethe.de>

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 村本 容子

講義内容・テーマ

身の回りの事柄、日常的な表現力を習得することを目標とする。ビデオ等の視聴覚機材を利用した授業および、テキスト(プリント)を使用して総合的なドイツ語の能力向上を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

既習者でプレースメントテストに合格した者(付属校以外のもので受講希望者は申し出ること)

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

最終試験(筆記試験)の成績および平常点(出席状況、発表、小テストの成績等)から総合的に評価する。授業における練習によってドイツ語を修得することが望ましいので、授業には積極的に参加すること。

講義スケジュール

第1回～第2回 導入(文法事項の復習)

第3回～第15回 趣味、道を尋ねる・教える、レストランとホテル、買い物、交通機関、天気・気温、
教育制度・職業、大学生活、人物描写・服装、病気、
依頼と希望の表現、相手の意志をたずねる表現、説明のための表現、空想したことの表現など

テキスト

プリントを適宜配布

参考書

「絶対わかるドイツ文法語大百科」三修社(希望者のみ)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

第1回の授業は必ず出席してください。その際、辞書および高校の授業で使用していたテキスト等を持参のこと。これらを使って簡単な練習問題を解いてもらいます(テストではありません!)

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 村本 容子

講義内容・テーマ

視聴覚教材等を使用した総合的な授業。その他、テキスト(プリント)・映像・新聞・雑誌・音楽・インターネットなどの資料を用いて、ドイツの現代文化・社会・日常生活についての理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

既習者でプレースメントテストに合格した者(付属校以外の者で受講希望者は申し出ること)

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

最終試験(筆記試験)の成績および平常点(出席状況、発表、小テストの成績など)から総合的に評価する。授業における練習によってドイツ語を修得することが望ましいので、授業には積極的に参加すること。

講義スケジュール

第1回～第2回 導入(文法事項の復習)

第3回～第9回 視聴覚教材を使用した授業

第10回～第15回 ドイツの現代文化・社会・日常生活に関するテキスト(プリント)、
映像、新聞、雑誌、インターネットなどの資料を使用

テキスト

プリントを適宜配布

参考書

「絶対わかるドイツ文法大百科」三修社(希望者のみ)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 DETLEF KOHN

講義内容・テーマ

1.Arbeit zur Verbesserung des Hoerverstaendnisses: wir benutzen ein Deutschkurs-Video und diverse Musik-Videoclips; 2.Arbeit zur Verbesserung der Lesefaehigkeit: wir benutzen Kopien, zunaechst einfache Texte, spaeter etwas schwerer. 3.Arbeit zur Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks: die Kursteilnehmer schreiben, zum Beispiel, Tagebuch.
Informationen und Reflexionen zum Bereich deutscher/europaeischer Kultur, auch und besonders im Vergleich zu Japan, werden vom Lektor angeboten und von den Kursteilnehmern erwartet.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Interesse und Mitwirkung

評価方法・基準

* 日常点: 加味する

Koeperliche wie auch geistige Anwesenheit und Mitwirkung. Ich bin aber kein Unmensch.

講義スケジュール

Jeweils pro Unterrichtseinheit:

- A. 1-2 Grammatikthemen, von R/L-Aussprache bis Konjunktiv, mit Xerox-Kopien
- B. darauf abgestimmte Hoerverstaendnisuebungen, mit Deutschkurs-Video
- C. ditto, mit Musikvideo-Clips
- D. Cliptexte werden ausgeteilt und besprochen
- E. einfache - spaeter fortschreitend interessantere - Lesetexte
- F. Partneruebungen

テキスト

Wird bekanntgegeben.

参考書

Ein gutes Woerterbuch

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

Nur Mut!

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 金子 英雄

講義内容・テーマ

現代のドイツに関する文章を読み解きながら、ドイツの社会や文化に対する知識の増大をはかると共に、ドイツ語の文法や文章表現の能力の向上をめざす。具体的には、ドイツ語検定2級程度の力をつけることが目標。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点:加味する

出席や発表などを中心とする平常点、および数回提出していただくレポートで評価。ペーパーテストは実施しない。

講義スケジュール

現代のドイツの社会(政治、環境問題なども含む)や文化(芸術や思想など)、あるいは歴史に関する様々なスタイルのドイツ文を読み進めていく(具体的な教材については、授業参加者の希望も取り入れるつもり)。それと同時に、これまでに獲得した文法事項の知識を確認したり補充したりしながら、ドイツ語の総合的な読解力、表現力をも養成する授業とするつもりなので、十分な予習をした上での授業への参加が望ましい。又、一方通行的な授業としないために、教材で扱われる興味深いテーマについては、随時討論したり、レポートを提出していただいたりする予定である。

テキスト

随時プリントを配布。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 村本 容子

講義内容・テーマ

視聴覚教材およびインターネットなどを用いながら、「読む・書く・聞く・話す」というドイツ語の4つの力の習得を目指す。構文把握力および語彙力を養うだけでなく、ドイツ語を聞く力、ドイツ語で表現する力をも養成する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

最終試験(筆記試験)の成績および平常点(出席状況、発表、小テストの成績など)から総合的に評価する。授業における練習によってドイツ語を修得することが望ましいので、授業には積極的に参加すること。

講義スケジュール

第1回～第15回

「文法」「読解」「語彙」「聞き取り」「作文」の5項目について学習する

(但し、第15回目の授業は最終講義試験)。

テキスト

プリントを適宜配布

参考書

「絶対わかるドイツ文法大百科」三修社(希望者のみ)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 OLIVIER LORRILLARD

講義内容・テーマ

自分自身について話す。動詞の活用を主に学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最終的には200の質問に迅速に答えることが出来る。

評価方法・基準

* 日常点: 加味する

口答試験2回、筆記試験1回行う。

講義スケジュール

- 1 3 第一群規則動詞を使用した質問
- 4 6 第一群以外の動詞を使用した質問
- 7 代名動詞を使用した質問
- 8 口答試験
- 9-10 過去動詞を使用した質問
- 11-12 未来動詞を使用した質問
- 13 復習
- 14 口答試験
- 15 筆記試験

テキスト

必要な資料はコピーの形で配布。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 OLIVIER LORRILLARD

講義内容・テーマ

フランスで生活する場合、日常よく出くわすことになる様々な状況でどのようにフランス語で表現したら良いか、教師がお手本を見せた後、グループで練習する。具体的な状況としては、「道を尋ね、相手の返答を理解する」「列車の切符を買う」「電話をする」「レストランに予約をする」「ホテルに部屋を予約する」等を予定。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

学習したダイアログを使いこなす。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

口答試験2回、筆記試験1回行う。

講義スケジュール

- 1 2 自己紹介(より詳しい)
- 3 道を聞く
- 4 電話をかける
- 5 レストランで
- 6 レストランを予約する
- 7 ホテルを予約する
- 8 口答試験
- 9 駅で
- 10 空港で
- 11 病院で
- 12 不動産屋でアパートを探す
- 13 復習
- 14 口答試験
- 15 筆記試験

テキスト

必要な資料はコピーの形で配布。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 加藤 彰彦

講義内容・テーマ

既にフランス語を履修した学生を対象に、比較的簡単なフランス語の文章を通して、フランス語の表現に親しむとともに、読解力を身につけることを目的とする。また、既に学んだフランス語の文法事項の復習も併せて行なう。テキストの文章は基本的に会話体であるので、覚えることによって会話にも役立てることができるし、随所に挿入されているパリに関する小文は比較的難しい文章の読解力を養うことに役立つ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級文法については既に履修していることが条件であり、初級文法程度の知識はあるものとして授業を進めていく。テキストの音読・訳読については各自が予習しておくこと。

評価方法・基準

* 筆記試験：最終講義日試験で実施

* 日常点：加味する

最終授業日に行なわれる最終講義試験を中心に80%、授業においてはテキストの音読・訳読、練習問題の解題を行なうので、授業の出席状況・授業への貢献度とも併せて10%、語彙を増やすために単語の小テストを毎時間行なう予定をしているので、その点数が10%。

講義スケジュール

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 Chapitre 1 音読・訳読
- 第3回 文法復習1と練習問題解題
- 第4回 パリに関する小文(1)の音読・訳読
- 第5回 Chapitre 2 音読・訳読
- 第6回 文法復習2と練習問題解題
- 第7回 パリに関する小文(2)の音読・訳読
- 第8回 Chapitre 3 音読・訳読
- 第9回 パリに関する小文(3)の音読・訳読
- 第10回 文法復習3と練習問題解題と文法補遺
- 第11回 Chapitre 4 音読・訳読
- 第12回 文法復習4と練習問題解題
- 第13回 Chapitre 5 音読・訳読
- 第14回 文法復習5と練習問題解題
- 第15回 最終講義試験

テキスト

渡辺美紀子、Joseph Mancel著『初めてのパリへの旅』駿河台出版社

参考書

授業中適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中適宜紹介する。

その他

テキストに使われている単語だけではフランス語の上達に不十分と思われることから、毎時間プリントを配布し、基本的な単語を覚える機会を提供する。

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 内藤 義博

講義内容・テーマ

新聞記事、インターネット上のテキストなど、今のフランスを知るための題材を用いて、仏検2級から3級程度のフランス語の力をつけることを目標にする。セメスターの最後にはそれぞれの力に合わせて、仏検2級または3級の問題にチャレンジする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
 - *日常点:加味する
- 最終試験も含めた三回ないしは四回の試験で判定する。

講義スケジュール

毎回、最初に、ヒヤリングまたはリーディングの練習をする。
上記のような教材を使って、文法の復習、表現の練習、レジュメなどの作業を行う。

テキスト

プリントを用意する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 加藤 彰彦

講義内容・テーマ

前期に引き続き、前期と同じテキストを使用する。前期と同様、既にフランス語を履修した学生を対象に、比較的簡単なフランス語の文章を通して、フランス語の表現に親しむとともに、読解力を身につけることを目的とする。また、既に学んだフランス語の文法事項の復習も併せて行なう。テキストの文章を繰り返し読むことによって、会話の表現力を身につけ、更には専門書を読むことができるくらいの読解力を養いたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級文法について既に履修していることが条件であり、初級文法程度の知識はあるものとして授業を進めていく。テキストの音読・訳読については、各自が予習しておくこと。

評価方法・基準

* 筆記試験：最終講義日試験で実施

* 日常点：加味する

最終授業日に行なわれる最終講義試験を中心に80%、授業においてはテキストの音読・訳読、練習問題の解題を行なうので、授業の出席状況・授業への貢献度とも併せて10%、語彙を増やすために単語の小テストを毎時間行なう予定をしているので、その点数で10%。

講義スケジュール

- 第1回 Chapitre 6 音読・訳読
- 第2回 文法復習6と練習問題解題
- 第3回 パリに関する小文(4)の音読・訳読
- 第4回 Chapitre 7 音読・訳読
- 第5回 文法復習7と練習問題解題
- 第6回 パリに関する小文(5)の音読・訳読
- 第7回 Chapitre 8 音読・訳読
- 第8回 文法復習8と練習問題解題
- 第9回 パリに関する小文(6)の音読・訳読
- 第10回 Chapitre 9 音読・訳読
- 第11回 文法復習9と練習問題解題
- 第12回 Chapitre 10 音読・訳読
- 第13回 Chapitre 10 音読・訳読(続き)
- 第14回 文法復習10と練習問題解題
- 第15回 最終講義試験

テキスト

渡辺美紀子、Joseph Mancel著『はじめてのパリへの旅』駿河台出版社

参考書

授業中適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業中適宜紹介する。

その他

テキストに使われている単語だけではフランス語の上達に不十分と思われることから、毎時間プリントを配布し、基本的な単語を覚える機会を提供する。

フランス語中級表現読解 K

11060

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 NADIA PORCAR講義内容・テーマ

"Le Cinema de la Vie"

Focus is oral comprehension

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

A FRENCH DICTIONARY

評価方法・基準

ORAL TEST

講義スケジュール

Each lesson: we will watch a very short scene from a movie by Eric Rohmer (around 2 minutes).

We will watch it again until the students have understood. Then, they will receive the transcription of the dialogues and we will speak about different themes: everyday life in France, ecology, expressions of the feelings, etc

テキスト

NO NEED (I will give copies)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 NADIA PORCAR

講義内容・テーマ

"Le Cinema de la Vie"

Focus is oral comprehension

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

A FRENCH DICTIONARY

評価方法・基準

ORAL TEST

講義スケジュール

Each lesson: we will watch a very short scene from a movie by Eric Rohmer (around 2 minutes). We will watch it again until the students have understood. Then, they will receive the transcription of the dialogues and we will speak about different themes: everyday life in France, ecology, expressions of the feelings, etc

テキスト

NO NEED (I Will give copies)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 BRIGITTE DEZ

講義内容・テーマ

これまで学習したフランス語の知識を使い、また、応用して学習します。授業内容を良く理解し、学習したことを発表します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

授業への積極的な参加、発表、授業中の小テスト、平常点

講義スケジュール

1. 学期の初めに、いくつかのテーマを挙げます。もし、興味のあるテーマがあれば、それを使っても良いです。
2. テキストは使用しませんが、適当な資料(新聞記事、CD、ビデオカセット)を用いて、授業をします。資料はこちらで準備します。
3. 資料の内容をまず、理解し、その後、内容についてコメントしてもらいます。
4. また、学生同志でディスカッションをします。
5. 授業はできるだけフランス語で行います。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 角谷 美知

講義内容・テーマ

フランス中編小説の名手、メリメの作品の読解を通じて、フランス語の基礎力を確かなものにし、書き言葉をも十分に理解できる応用力を養成することを目標にする。書き取りの練習も取り入れる予定である。なるべく様々な文体に慣れるため、プリントで口語体の文章も読む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

フランス語の基礎文法、読解力を備えていることを前提とする。授業中には希望者に発表してもらうので、予習をして積極的に参加してほしい。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

最終講義試験に授業中の発表、出席点を加味して評価をおこなう。

講義スケジュール

第1回:メリメの紹介、授業のすすめ方、アンケート等

第2回~7回:テキストの読解

時々書き取りテスト実施

第8回:ビデオ鑑賞

第9回~13回:テキストの読解

プリントで会話文等の読解

第14回:まとめ

第15回:最終講義試験

テキスト

プロスペル・メリメ著、市川慎一編『青い部屋』第三書房(立命生協)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 湊野 ゆり子

講義内容・テーマ

フランスの作家ロジェ・グルニエの短編「春から夏まで」を購読する。1930年代(第2次世界大戦前夜)のフランスの一地方都市を舞台にした、ある青春のエピソードを軽快な文体で綴った作品である。読む楽しさを味わいながらフランス語の力をつけることをめざしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

フランス語の初級文法をひと通り学び終えた者。進度に応じた予習が必要である。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

授業への参加度、授業中の発表、試験の成績などから総合的に判断する。

講義スケジュール

第1回 プリント配布(授業内容の解説など)

第2回～第5回 文法事項の復習もかねてゆっくり進む。

第6回～第14回 毎回2ページ程度のペースで進む。

第15回 最終講義日試験

テキスト

「春から夏まで」ロジェ・グルニエ著飯島・安藤編注、朝日出版社、生協にて販売

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 張 建明

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ

- 、 学生の実力に応じて授業を進めていきます。
- 、 中国語を聞く力の向上を重点に置きます。
- 、 中国の最新情報を取り入れます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 筆記試験:最終講義日試験で実施
 - * レポート:夏期休暇中に実施
 - * 日常点:加味する
- 平常点の比重は30%です。

講義スケジュール

最初の授業は、中国語による自己紹介と実力テストを行います。
第二回から次のように授業を展開していきます。

- 、 ウォームアップとして、音声情報理解に必要な単語、文法を勉強します。
- 、 「 」が終わったあと、音声情報のテープを流しては学生に聞かせます。
- 、 学生に、音声情報を通訳または書き取らせます。

テキスト

特になし。プリントを配ることがあります。

参考書

必要が生じたとき追って知らせます。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要が生じたとき追って知らせます。

その他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 張 建明

講義内容・テーマ

- 、 学生の実力に応じて授業を進めていきます。
- 、 中国語を聞く力の向上を重点に置きます。
- 、 中国の最新情報を取り入れます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
 - *日常点:加味する
- 平常点に比重は30%です。

講義スケジュール

最初の授業は、中国語による自己紹介と実力テストを行います。

第二回から次のように授業を展開していきます。

- 、 ウォームアップとして、音声情報理解に必要な単語、文法を勉強します。
- 、 「 」が終わったあと、音声情報のテープを繰り返して流して学生に聞かせます。
- 、 学生に、音声情報を通訳しましたは書き取らせませす。

テキスト

特になし。プリントを配ることがあります。

参考書

参考書必要が生じたとき追って知らせます。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

参考書必要が生じたとき追って知らせます。

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 卞 惟行

講義内容・テーマ

ふだんビジネスでよく使われるような言いまわしを選び、色々なシーンを想定して新しい表現を身につけたい。
余裕があれば中国の映画ドラマなどのビデオを鑑賞したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

最終講義日の試験(60%)、提出物(20%)、出席率(20%)

講義スケジュール

- 第1回 授業の説明
- 2 第1課 空港での出迎え
- 3
- 4 第2課 宴会
- 5
- 6 第3課 電話のかけ方
- 7
- 8 第4課 スケジュール
- 9
- 10 第5課 工場見学
- 11
- 12 第6課 引き合い
- 13
- 14 まとめ
- 15 試験

テキスト

こんな時には 商務中国語入門 堀 黎美・陳 月吾共著、晃洋書房

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

中国語中級表現読解 K

13080

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 郭 偉

講義内容・テーマ

読解と会話を結び付けた教材をテキストとする。
文化その他、中国事情を織り込みつつ、読解力を中心に、総合的中国語能力の向上を目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級中国語をひとつとおり終えた学生を対象とし、予習と復習の徹底など主体性ある取り組みを求める。

評価方法・基準

- *筆記試験:定期試験として実施
- *日常点:加味する
- 平常点30%、最終試験60%、その他10%

講義スケジュール

- 第一回 オリエンテーション・実力調査など
- 第二回～第十四回
 - ・単語テスト
 - ・テキストを中心とする学習(本文の音読と翻訳、本文に基づいた会話の練習など)
 - ・インターネットの活用など、受講者の実力と要求に応じた実践的学習
- 最終回 試験

テキスト

『読んで話す 中国事情』金路・蔡明哲著 三修社
辞書は各自で持参すること

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 ㊦ 惟行

講義内容・テーマ

前期使用したテキストの後半部分を学んでいき、みんなで中国人独特のものの考え方を話し合ってみたい。それとは別にビデオを使い聞き取りの練習もする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

最終講義日の試験(60%)、提出物(20%)、出席率(20%)

講義スケジュール

- 第1回 授業の説明
- 2 第7課 値を知らせる
- 3
- 4 第8課 契約
- 5
- 6 第9課 包装
- 7
- 8 第10課 船積み
- 9
- 10 第11課 決算
- 11
- 12 第12課 クレーム
- 13
- 14 まとめ
- 15 試験

テキスト

こんな時には 商務中国語入門 堀 黎美・陳 月吾共著、晃洋書房

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 永井 英美

講義内容・テーマ

何のために中国語を勉強するのか。もちろん中国語を話し、読み、使うためです。この授業は、話すことと聴き取ること、そして読解に重点を置きます。正しい発音でテキストの本文を暗記してゆくことによって、中級レベルの中国語が、読み取れて聴き取れ、話せるようになることを目指します。毎回何か1曲、中国の音楽を聴いたり、習った言い方を使って隣の席の人と応用会話をするなど、楽しく授業を進めます。力をつけるためには、授業時間の勉強だけでは足りないので、毎回40分程度かかる宿題が出ます。本当に力をつけたい人には、この授業でそれを可能にしたいと思います。単位さえあればよい人には向かないので注意してください。試験問題は授業と宿題で繰り返し勉強した内容からのみ出題します。普段の授業の勉強が、何より大切です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

以下のような人が受講してください。すでに基礎を勉強し、発音が正しくできる人(中国語の発音記号が正しく読める人)。毎回の出席・宿題がきちんとできる人。(特に第1回目の授業には、公欠等やむを得ない場合以外、必ず出席すること。)授業中、携帯等は電源を切って、バッグの中へ。時計が必要な人は腕時計を持つこと。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

平常点(出席・宿題・授業態度ほか) 発音テスト(暗誦・会話) 筆記テスト(ヒアリングほか)の総合評価。 : : = 3:3:4とする。

講義スケジュール

4月.....第1課・第2課(助動詞ほか)

5月.....第3課・第4課(助動詞・接続詞ほか)

6月.....第6課・第7課(進行・経験・持続などの言い方)

7月.....第8課・第9課(完了の言い方、比較表現ほか)および試験

各課とも、単語の意味の確認 文法事項学習 本文 応用会話の順に進めます。

本文・応用会話とも、文章の意味が頭に入ったら、それを正しく読める 聞き取れる 言えるよう、テープを活用して繰り返し練習し、ネイティブのスピードに慣れるようにします。

学習した言い方を使って、隣の席の人と応用会話を行います。中級にふさわしい十分な読解の力も身につくように授業を進めます。

テキスト

『話す中国語 初級～中級篇』董燕・遠藤光暁著 朝日出版社 学内生協で販売
(テキストは必ず購入すること。コピーの場合、単位は認定しません。)

参考書

『中日辞典』(小学館)

この授業では辞書が必要です。持っていない人は、第1回目の説明を聞いてから、購入してください。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 永井 英美

講義内容・テーマ

何のために中国語を勉強するのか。もちろん中国語を話し、読み、使うためです。この授業は話すことと聴き取ること、そして読解に重点を置き、正しい発音で本文を暗誦することにより、中級レベルの表現・読解力をつけることを目指します。授業では毎回中国の音楽も紹介し、12月には、教科書の他、VTR・プリントなども用いて、中国の映画や文化・歴史も勉強し、教養を深めます。留学生と会話する日も1日設けるなど、楽しく勉強してゆきたいと思います。力をつけるためには授業時間の勉強だけでは足りないので、毎回40分程度かかる宿題が出ます。本当に力をつけたい人には、この授業でそれを可能にしたいと思います。単位さえあればよい人には向かないので注意してください。試験問題は、授業と宿題で繰り返し勉強した内容からのみ出題します。普通の勉強が何より大切です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

以下のような人が受講してください。すでに基礎を勉強し、発音が正しくできる人(中国語の発音記号が正しく読める人)。毎回の出席・宿題がきちんとできる人。(特に第1回目の授業には、公欠等やむを得ない場合以外、必ず出席すること。) 授業中、携帯等は電源を切ってバッグの中へ。時計が必要な人は腕時計を持つこと。

評価方法・基準

*筆記試験:最終講義日試験で実施

*日常点:加味する

平常点(出席・宿題・授業態度ほか) 発音テスト(暗誦・会話) 筆記テスト(ヒアリングによる書き取りほか)の総合評価。

: : = 3:3:4とする。

講義スケジュール

9・10月.....11・12課(結果補語・方向補語ほか)

11月・12月.....13課・14課(把構文・可能補語ほか)、映画・文化・歴史などの学習・留学生との会話ほか

1月.....16課(程度補語)と試験

各課とも、単語の意味の確認 文法事項学習 本文 応用会話の順に進めます。

本文・応用会話とも、文章の意味が頭に入ったら、それを正しく読める 聴き取れる 言えるよう、テープを活用して繰り返し練習し、ネガティブのスピードに慣れるようにします。

学習した言い方を使って、隣の席の人と応用会話を行います。また中級にふさわしい、十分な読解の力も身につくよう、授業を進めます。

12月には通常授業の傍ら、歴史・文化なども合わせて勉強し、大学で中級中国語を学習した学生として、最低限必要な教養も身につけたいと思います。

テキスト『話す中国語 初級～中級篇』董燕・遠藤光暁著 朝日出版社 学内生協で販売
(テキストは必ず購入すること。コピーの場合、単位は認定しません。)参考書

『中日辞典』(小学館)

この授業では辞書が必要です。持っていない人は、第1回目の説明を聞いてから購入してください。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 洪 潔清

講義内容・テーマ

中国語の基礎を身につけた既習者を上級レベルと導くことを目的とする。
教科書の内容を学ぶとともに、中国において日常生活で起こりうるさまざまな問題に対処できるようにする。一課の内容が終わった後、関連するプレゼンテーションを行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

プレゼンテーションの内容、試験及び出席率を総合的に見る。

講義スケジュール

授業の展開と規則を説明する。受講者の要望を聞く。

- ～ テキストの内容にしたがって授業を進める。一課が終わった後、ペアで 又はグループでプレゼンテーションを行う。
- 復習
試験

テキスト

「悠ゆう遊ゆう北京」 井上貴仁 等著 白帝社

参考書

中国語辞書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 松尾 洋二

講義内容・テーマ

中国語中～上級の一つの大きな課題として、論説文をピンインなしで大量に読解することがあげられる。
本講義では、小説に比べ、やや易しい社会科学系論文を選読する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ピンイン・読解を含む予習を必ずしてくる。

評価方法・基準

毎回の発表、小テスト(授業中に行う)

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2～5 音読・和訳
構文解釈
専門の工具書の随時紹介

テキスト

プリント配布(葉乾伸著:「梁啓超与韓國的英雄主義」)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 尾崎 和子

講義内容・テーマ

中国語入門で学んだ発音と文法の基礎の上に、さらに高度な中国語能力の向上をはかるため、夕刊紙の文芸欄に掲載された、読み切りのショートストーリーを読解する。中国の現代社会を背景に、世相をチクリと風刺したもの、人間の心の機微にふれるものなど、様々な主人公の登場する個性的な文章を、一字一句もゆるがせにしないで、味読していきたい。学生諸君には辞書を用いて十全の予習の上、欠かさず出席するよう望みます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日中辞典を授業に携帯すること

評価方法・基準

- *筆記試験:最終講義日試験で実施
- *日常点:加味する
- ・出席点、平常点(音読、翻訳) 20点

- ・期末試験 80点

講義スケジュール

- | | |
|-------------|------------|
| 1. | 第1課 |
| 2. | 第2課 |
| 3. | 第3課 |
| 4. 5. 6. | 第4課 第5課 |
| 7. 8. | 第6課 |
| 9. 10. | 第7課 |
| 11. | こんな話一 (巻末) |
| 12. 13. 14. | 第8課 |
| 15. | 期末試験 |

テキスト

『中国人と中国語』尾崎 實編 光生館

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他